

# 『真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）』

著者

A. R. イブン・ハッマード・アール・ウマル

小冊子『真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）』（A. R. イブン・ハッマード・アール・ウマル著/アシュラフ安井訳）はイスラームの基本的な教えを分かりやすく説明している本です。本文中のクルアーンやハディースの引用文はアラビア語原文と日本語訳で書かれています。特にクルアーン引用節に関しては章と節の番号が記載されていますのでクルアーンをお持ちの方はぜひ実際にクルアーンを開いて照らし合わせてみてください。

## 目次

### \* はじめに

### \* 訳者前書き

### \* 第1章 偉大なる創造主アッラーを知る

1. アッラー存在の証明
2. アッラーのスイファート (属性)
3. アッラーが人間とジン (2) を創造なされた目的
4. 復活と生前の行為と死後の報い
5. 人間の言行

### \* 第2章 使徒を知る

1. 偉大なる使徒
2. 使徒 (1) の奇跡 (ムウジザート) (2)
3. アル・クルアーンがアッラーフ・タアラーのみ言葉であることとムハンマドが使徒であることの合理的証明と証拠
4. アッラーとムハンマドのイーマーン (信仰) への呼び掛け

### \* 第3章 真理の教え『イスラーム』を知る

1. イスラームへの招請
2. イスラームの意味
3. 五柱
  - a. 第1の柱：シャハーダ (証言)
  - b. 第2の柱：サラア (礼拝)
  - c. 第3の柱：ザカー (浄財の供出)
  - d. 第4の柱：サウム (断食)
  - e. 第5の柱：ハッジ (巡礼)
4. イーマーン (信仰)

\* 第4章 イスラームにおける生き方

1. [イルムについて](#)
2. [アキーダ \(信条\) について](#)
3. [人々との諸関係について](#)
4. [信仰あるものにとって](#)
5. [社会生活における相互責任と相互扶助](#)
6. [内政](#)
7. [外交政策](#)
8. [自由](#)
9. [家族](#)
10. [健康](#)
11. [商業・経済・産業・農業](#)
12. [目に見えない敵](#)
13. [高尚な目的と幸福な生活](#)

\* 第5章 イスラームに対する誤解

1. [イスラームを悪く言う人達](#)
2. [イスラームの源泉](#)
3. [マズハブ \(1\)](#)
4. [イスラームとは無関係な団体](#)

\* [救いへの招請](#)

# 慈悲あまねき慈悲深きアッラーのみ名において

## はじめに

万有の主アッラーに讃えあれ。そして、すべての使徒に祝福と平安あれ。

さて、本書はナジャー（救い）への呼びかけで、男女にかかわらずすべての頭脳明晰な読者諸君に捧げるものです。唯一神であられるアッラーの道から外れた方々が幸福を得ることと、わたくし及びこのダーワ（呼びかけ）に寄与される方々が最高の報酬に授かれますことを、わたくしは至高かつ全能なるアッラーにお祈りし、アッラーにこそ助けをこい求めます。

頭脳明晰な読者よ、あなたを創造なされたあなたのラッブ（主）を知り、あなたの主を信仰し、あなたの主のみを崇拝し、あなたの主があなたとすべての人類に遣わされたあなたのナビー（預言者）について知り、かつ、かれを信じて従い、あなたの主があなたに命じられたディーヌ・ル・ハック（真理の教え）をあなたが知り信仰し実践する以外には、ドゥンヤ（現世）及び死後のアーヒラ（来世）において、あなたは救われもしなければサアーダ（幸福）にも浴さないことを知らなければなりません。

あなたの手に行っている本書『ディーヌ・ル・ハック（真理の教え）』にはあなたが知り、かつ実践しなければならないこれらの立派な教えが明らかにされています。必要と思われるところには脚注を付しておきました。アッラーのみ言葉であるアル・クルアーンと使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のハディース（伝承）のふたつはアッラーがディーヌ・ル・ハック（真理の教え）として受け入れて下さる唯一の教えとしての参考文献はこれ以外にないことから、これらふたつを原典資料として参照かつ引用させて頂きました。

ハック（真理）からはほど遠いにもかかわらず、多くの人びとを迷わした盲目的模倣から断ち切れない教団に属する者達があるいはその他の無知なる者達が留意し、真（まこと）であるがごとく主張する踏み迷った教団についてもふれておきました。

アッラーこそわたしにとって充分であり、最も優れた管理者であります。

## 慈悲あまねき慈悲深きアッラーのみ名において

### 訳者前書き

万有の主アッラーに讃えあれ。その忠実な使徒のムハンマド・ブン・アブドゥッラー及びその一族とサハーバ（教友達）とその追従者すべてに祝福と平安あれ。

サウジアラビア・アルイマーム大学附属アラビック・イスラミック・インスティテュート東京分校のアルイマーム・アフマド・ブン・アリー・アルフレイフィー校長先生より『ディーヌ・ル・ハック（真理の教え）』の邦訳を依頼され本書の翻訳を引き受けた幸いです。このたびここに本訳書を発刊出来ましたことをひとえにアッラーフ・タアーラーのおかげであると感謝いたしています。アル・ハムド・リッラー。

本書の表題はアラビア語原文では『ディーヌ・ル・ハック』と題していますが、この言葉はアル・クルアーンでは4回出てきています。この意味は『日亜対訳注解聖クルアーン』では「真理の教え」（Q 9/29、33）、「真実な教え」（Q 48/28）、「真実の宗教」（Q 61/9）とあり、いずれもイスラームを意味しています。本書の邦訳では一貫して『ディーヌ・ル・ハック（真理の教え）』としました。

ディーンという言葉はよく宗教と訳されますが、必ずしもそう訳しきれない場合がかなりあります。イスラームは日本語で言う宗教という言葉にあてはまらない要素がかなりあります。アッラーフ・タアーラーはディーンについて次のように定義づけています。

**(( إن الدين عند الله الإسلام ))**

アッラーのみ許にあるディーン（教え）こそイスラームである。 **(Q 3/19)**

このようにイスラームではディーンとはアッラーフ・タアーラーから啓示されたアッラーの教えのことを意味し、後世人の手によって修正改竄あるいは創始された宗教を元来ディーンといわないことは上述のアル・クルアーンのアヤ（節）からも明かです。従って、『日亜対訳注解聖クルアーン』でも上述のアヤにあるディーンという意味を「教え」としていることから、本翻訳でも「ディーン（教え）」としておきました。

本書はムスリムでない人を対象にはしていますが、ムスリムにとってもイスラームを再確認する意味でもたいへん有益な本であるということはいうまでもありません。アル・クルアーン第47章アーヤ19にもあるようにイスラームのイーマーン（信仰）を深めるにはまず知ることです。ムスリムは生涯を通じてアッラーの教え即ち『ディーヌ・ル・ハック（真理の教え）』を学ぶことが義務づけられています。またディーン（教えは）はアル・クルアーン第2章アーヤ132にもあるように、相続されなければならないことはいうまでもありません。今までこの種に関するムスリム学者の手による邦文書はすくなくただけに、ディーヌ・ル・ハック（真理の教え）を探し求めている方々にとって、本書が少しでもイスラームの正しい理解に寄与したならば、訳者として望外の喜びです。

本書には初学者にとって分かりにくいところもあるでしょうが、そういうところは訳註を入れて分かりやすくしたつもりです。また、よりイスラームの考え方を明確にさせるためにも原語をカタカナ表記にし、括弧内に邦訳をつけました。逆にした箇所もいくつかあります。

本翻訳では、頻繁によく出てくる下記の言葉はその都度邦訳を載せず、そのかわり意味をまとめてここに載せておきます。この点お断りしておきます。

**アッラーフ・タアラー**：至高なるアッラー。

**アッラーフ・スブハーナ**：完全無欠なアッラー。

**アッラーフ・スブハーナフ・ワ・タアラー**：完全無欠な至高なるアッラー。

**ラスールッラー**：使徒。多くの場合ムハンマドを指します。

**ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム**：使徒、アッラーよかれに祝福と平安あれ。多くはムハンマドを指します。「サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム」は「アライヒッサラート・ワッサラーム」ともいいます。

**ナビー**：預言者。

**アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム**：預言者、アッラーよかれに祝福と平安あれ。多くはムハンマドを指します。

**ラディヤッラーフ・アンフ**：かれにアッラーのご満悦あれ。ムハンマドと苦楽を共にしたサハーバ（教友達）と呼ばれている人達に与えられている賛辞。名前の後に付されていることが多い。女性の場合は最後のところが「アンハー」となり、男性複数の場合「アンフム」、その女性の場合は「アンフナ」、男性女性双数の場合は「アンフマー」となりま

す。

(Q/) は (Qur-aan スーラ番号/アーヤ番号) を意味します。スーラとはアル・クルアーン  
の章のことで、アーヤとはここではアル・クルアーンの節を意味します。また、アーヤに  
はアッラーの印即ち奇跡という意味もあります。アル・クルアーンの意味を補充するた  
めに [ ] をもちいて表記しました。

本書の翻訳にあたり何箇所かにつきましてはアラビック・イスラミック・インスティテュー  
ト東京分校のアルフレイフィー師に御教授を仰ぎました。また、本書の英訳も参考にいた  
しました。アル・クルアーン及びハディースの原文に関しましてもアルフレイフィー師に  
見ていただきました。邦文の訳文に関しましては妻にも協力を得ました。その他本翻訳に  
あたりサウジアラビア留学生からも励ましを得ました。これらすべての方々にアッラーフ・  
タアラーからの祝福がありますようお祈りいたしています。筆者にとっても本書の邦訳  
を通し大いに勉強となりアッラーフ・タアラーに感謝いたしています。

なお、本文に翻訳上の誤りなどがありました場合は、すべて訳者の浅学非才のため生じた  
もので、訳者一人の責任として次回の改訂の機会に訂正したいと願っています。

最後に本書の翻訳が少しでも役立てば幸いです。わたしたちにアッラーからの導きがあり  
ますよう。

# 第1章

## 偉大なる創造主アッラーを知る

### 1. アッラー（1）存在の証明

頭脳明晰な人間に告ぐ、あなたを無から創造なされ、恩寵をもってあなたを育てられたあなたのラッブ（主）こそ万有の主アッラーであります。アッラーフ・タアラーを信ずる頭脳明晰な人間は自分の目で直接アッラーを見るのではなく、アッラーフ・タアラー（2）が存在する被造物すべての創造主であられかつ管理者であられることを示す様々な証を見て、アッラーの存在を知ることなのです。アッラーの存在を示す証を下記にいくつか示しておきました。

●**第1番目の証** 宇宙と人間と生命は生成された有限の事象で、これらはこれら以外のものを必要としています。生成し何かを必要とするものは常に被造物でなければなりません。そして、被造物は必ず、創造主（ハーリク）が存在していなければ、存在しません。この偉大なる創造主こそアッラーであります。存在する被造物すべての創造主であられると同時に管理者であられることを神聖なご自身自ら伝えているのです。このことはアッラーフ・タアラーご自身が遣わした使徒達に啓示された諸啓典（クトゥブ）の中で明らかにされています。

アッラーの使徒達は人々にアッラーのみ言葉を伝え、そのイーマーン（信仰）とアッラーのみへのイバーダ（崇拜）を説いてきたのです。アル・クルアーンの中でアッラーフ・タアラーは次のようにおっしゃっています。

((إِنَّكُمْ مَالِلَالَّذِي خَلَقَ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضَ فِي أَيَّامٍ ثُمَّ لَسَوَىٰ عَلَى الْوُجُوهِ يُغْشَى اللَّيْلَ  
نَهَالِرٍ يَطْلُبُهُ حَوْلَ الشَّمْسِ وَالْقَمَرِ التَّوَجُّومَ فَخَرَاتٍ مَبْرُوهٍ لِمَا الْخَلَقَ مُؤَاظِمًا بَارِكِ اللَّهُ رَبُّ  
لِعَالَمِينَ))

あなたがたのラッブ（主）こそアッラーであられる。[かれこそ] 6日で天地を創造なされ、アルシュ（玉座）の高位にあられる。夜を昼に覆わせられ、一刻も途絶えることなく昼を夜に覆わせられる（1）。太陽や月そしてあまたの星はかれ [アッラー] のアムル（命）に服されている（2）。創造とアムル（命令） [の大権] はかれ [アッラー] にのみ属するではないか。ラッブ・ル・アラーミー（万有の主）アッラーにこそ祝福あれ。

(Q 7/54)

**アーヤ (3) の意味** アッラーフ・タアーラーは人類を創造し、6日で天地を創造なされたラッブ (主) であられること (4)、アッラーフ・タアーラーがその玉座 (アルシュ) よりもずっとはるかに高位であられること、玉座は天上にあり被造物の中で最も高い位置を占め最も広大であること、アッラーフ・タアーラーはこの玉座よりも高方にあられご自身の知覚と聴覚と視覚を通して人間のことにに関して他のすべての被造物と同様に何もかも見通されていることなどが伝えられています。また、アッラーフ・タアーラーこそ夜をして闇で昼を覆わせられたこと、そして太陽や月や星を創造なされ、それらすべてをアッラーに服従せしめ、それぞれを軌道にお乗せになったことが伝えられています。また、実体とスィファート (属性) においてアッラーこそ絶えることのない多くの善をお授けになる偉大で完璧なお方なのです。かれこそは万有のラッブ (主) であられます。人間を創造なされまたニウマ (恩寵) をもって人間を育成なされたお方であられます。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((إِنَّ لِكَبِيرُوفِ الْمَلْسَرِ بِكَ يَسْبَحُونَ لِلْمَلْبِيلِ وَعَالَارِ وَمَا لَا يَسْأَمُونَ))

かれ [アッラー] のアーヤ (印) [のいくつか] には夜と昼、それに太陽と月がある。[だが] 太陽や月にサジュダ (平伏) してはならない。これら (1) を創造なされたアッラーにサジュダしなさい。もしあなたがたがかれ [アッラー] のみイバーダ (崇拜) するならば。 (Q 41/37)

**アーヤの意味** アッラーの存在を示す印し (アーヤ) として夜、昼、太陽、星が存在していることと、太陽や月は他の被造物同様被造物であるがため、人間がこれらに平伏することを禁止なされたことが伝えられています。被造物を崇拜の対象とすることは間違っており、平伏すること自身が崇拜の行為の一種であるからです。アッラーはこのアーヤにおいて、他のアーヤにおいても同様に、人々にアッラーにのみ平伏することをお命じになりました。アッラーこそ崇拜の対象に値する創造主で管理者であられるからです。

●**第2番目の証** アッラーフ・タアーラーこそ雌雄 (しゅう) の両性を創造なされ、両性の存在こそアッラーフ・タアーラーの存在を示す証なのです。

●**第3番目の証** 言葉や皮膚の色の違いを見ても分かるように同じ声や皮膚の色をしたものは存在しておらず、相違があること自体がアッラーフ・タアーラーの存在を示すものがあります。

●**第4番目の証** 貧富の差や地位の違いなどをみても分かるように、幸運や不運の存在こそアッラーフ・タアーラーの存在を示すものであります。一方、人は各自それぞれアクル (理性) やフィクル (思惟) やイルム (知識) の持ち主であり、また得られない富や名誉や美人たる妻を得ることに関心を持っているものなのです。しかし、実はアッラーの力を

もって以外は誰もこれらのものを得ることはできないのです。これこそアッラーフ・スブハーナが望まれた偉大なるヒクマ（英知）なのです。それはすべてのものの利益が損なわれないように、互いに試練し合い奉仕し合うことを意味しているのです。

ドゥンヤー（現世）でアッラーから運がめぐみ与えられない者にも、アッラーへのイーマーン（信仰）をもって死んだ時の場合にそなえて、アッラーフ・タアーラーはさらなる恩寵をもってジャンナ（楽園）に運を蓄えてくださることを伝えていらっしやいます。アッラーは大抵の場合貧しい者には富める者にはない多くの精神的にも健康的にも享受すべきいくつかの恩恵を与えていらっしやいます。これはアッラーの英知であり、公正さからくるものであります。

●**第5番目の証** ガイブ（不可知なるもの）の世界からの喜びあるいは警告を知らせる正夢はまさにアッラーの存在を示すものであります。

●**第6番目の証** アッラーだけしか事実を知らないルーフ（魂）の存在もアッラーの存在を示すものであります。

●**第7番目の証** 身体にある感覚をはじめとする神経器官や脳及び消化器官やその他の臓器そして人間そのものの存在こそアッラーの存在を示すものであります。

●**第8番目の証** 枯渇した大地に雨が降ると、そこには様々な形や色をした味覚などの異なる有益な草木が芽を出しますが、アッラーフ・タアーラーがアル・クルアーンの中で語られているように、これこそアッラーの存在を示し、かつアッラーこそ宇宙の創造主であられ管理者であられることを示す証なのです。これは何百とある証のほんのわずかなものです。

●**第9番目の証** アッラーが人間を創始なされたさい礎としたフィトラ（生得）の存在こそ創造主で管理者であられるアッラーの存在を信ずる証以外のなにものでもありません。それを否定する者は己を偽り不幸にするだけなのです。例えば、共産主義者はドゥンヤー（現世）において惨めな生活を送ってきた結果、恩寵をもって自分を無から創造なされ、自分を育成なされたラッブ（主）を偽ってきたジャザー（報い）として、死後の運命がナール（業火）に陥れられる共産主義者の例こそ最たる例です。但し、アッラーにタウバ（改悛）して、アッラーとその使徒を信仰さえすればナールから救われるのです。

●**第10番目の証** 被造物のなかには羊のように集団で生息するものと、これとは反対に犬や猫のように孤立して生息するものが存在すること自体アッラーの存在を示すものであります。

## 2. アッラーのスィファート（属性）

アッラーフ・タアラーは始めのない過去の永遠からの最初の存在主であります。死ぬこともなく終わりもなく永遠に生きられるお方であられ、アッラーご自身をもって司られ自存されるお方であられます。また、アッラーと並べうるものが存在しない唯一の存在主であります。アッラーフ・タアラーは次のようにおっしゃっています。

((قُلْ هُوَ اللَّهُ أَحَدٌ ۝ اللَّهُ الصَّمَدُ ۝ لَمْ يَلِدْ وَلَمْ يُولَدْ ۝ قُلْ لِمَنْ نَكَّبُ كُفُؤًا أَحَدٌ))

言え。「アッラーこそ唯一なり。\*アッラーこそ永遠かつ、自存するお方。\*生みもせず、生まれもしない、\*そして、かれ [アッラー] と比較しえるものは [他に] 何ひとつない」。 (Q 112/1-4)

**アーヤの意味** 不信仰な者達が使徒達の封印（1）（ハータム・ル・ムルサリーン）であられる使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）にアッラーの属性について尋ねたときアッラーは前述のスーラ（2）を啓示なされたのでした。この中で、使徒に下記の内容のことをかれらに伝えるようにお命じになったのでした。

アッラーは唯一無二で、同伴者を一切持たず永遠に生きられる管理者であられること、人類だけではなく宇宙に存在する被造物すべてに対してアッラーだけが絶対的な主権の持ち主であられること、人間が何かを必要とするさいに唯一帰るべきお方であるということなどが伝えられたのでした。

《生みもせず生まれもしない》というアーヤの意味はアッラーに息子や娘、また父や母がいたりすることは正しい考え方ではないということです。続柄とか出生は被造物の属性であるので、アッラーご自身このスーラ及びその他のスーラでこのことすべてをきっぱりと否定なされたのでした。アッラーは「イーサー（イエス）はアッラーの子である」というキリスト教徒達の言い分やまた「ウザイル（エズラ）はアッラーの子である」というユダヤ教徒の言い分をはじめとするその他の人達の「天使（マラーイカ）はアッラーの娘である」などこの種の言い分にお答えになったのでした。

アッラーこそイーサー（1）（アライヒッサラーム）をご自身の力をもって父なくして一人の母から創造なされたことをアッラーは伝えていらっしゃる。同様なことは人類の祖アーダムを土から創造なされ、また人類の母ハウワーをアーダムの肋骨（あばらぼね）から創造なされ、アーダムの精液とハウワーの愛液からアーダムの子孫を創造なされたのでした。

アッラーは最初無からすべてのものを創造なされ、アッラー以外には誰も変えることのできない法則と体系をこの宇宙に存在する被造物にお与えになったのでした。もしアッラーご自身がこの体系に何らかの変化を加えたい場合、ご自身の意のままにこの体系を変えることができるのです。たとえばいくつかの例があります。イーサー（アライヒッサラート・ワッサラム）（7頁参照）が父なく母から生まれ、既に幼少にしてハック（真理）を語り始めた例もそのひとつです。また、ムーサー（モーゼ）の杖をへびに変えた話や、またムーサーが海をその杖でうったとき、海が割かれ、かれの民が渡った道となした話などがあります（2）。使徒達の封印であられるムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に対して月がさく裂した話や木の前をお通りになったさい、木が挨拶した話などがあります。人が聞こえる程度の声で動物が「わたしはあなたがラスールッラー（アッラーの使徒）であることを証言します」と証言した話もあります。天使ジブリールとともに、マッカのアル・マスジド・ル・ハラームからアル・クドウス（エルサレム）のアル・マスジド・ル・アクサー（遠隔のモスク）へブラークに乗って夜旅をされたことがありました。そこから七天に昇られ、その天上に着かれたさい、アッラーはかれと対話をなされました。このとき、サラ（礼拝）がはじめて1日5回義務として課せられたのでした。また、途中七天の人々と接見されマッカのアル・マスジド・ル・ハラームに戻られたのでした。それは夜明け前の一夜の出来事でした。このイスラー（夜の旅（3））とミウラージ（七天への昇天）の話はムスリムが記憶していなければならない有名な話で、アル・クルアーンやハディース（伝承）その他多くの預言者伝や歴史書に詳しく言及されています。

アッラーフ・タアーラーのスイファート（属性）のいくつかにサムウ（聴覚）とバサル（視覚）、イルム（知力）とクドゥラ（力）、イラーダ（意志）があり、すべてを聴き見、ご自身の聴見を妨げるべきものは一切ないのです。

子宮の中に宿っているものや心に隠されているもの、また過去そして未来のすべてに渡って何もかもご存知であられるのです。かれこそは何かお望みになれば、それに「有れ」とおっしゃると、即座に「有る（1）」状態をなせる意志をお持ちで、しかも全能であられるお方なのです。

神聖なご自身自らが形容なされたアッラーの属性のひとつに、お望みになられるたびにお望みになられるみ言葉があります。アッラーは実際にムーサー（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）や使徒達の封印であられるムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）にアッラーのみ言葉をもって語られました。使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に啓示されたアル・クルアーンはその文字と意味ともにアッラーのみ言葉なのです。これはアッラーの属性のひとつです。アッラーの道からはずれたムウタズィラ学派（2）の人たちが主張したようにアル・クルアーンは創造されたものではありません。

神聖なご自身と使徒達がアッラーご自身を形容なされたアッラーの属性のいくつかに、顔、両手、イスティワー、降臨（3）、満足や怒りなどがあります。アッラーは信仰ある者には満足なされ、不信仰な者や当然アッラーの怒りをかう罪人に対してはお怒りになるのです。他のアッラーの属性同様、満足、怒りも被造物の属性とは類似しているものでもなければ、曲解したり「いかに」と考えるべき対象でもないのです。

アル・クルアーンとスンナにおいて信徒達はアッラーフ・タアーラーを自分たちの目で実際にキヤーマ（復活）の場とジャンナ（楽園）で見ることはすでに定められています。アッラーフ・タアーラーの属性については偉大なるアル・クルアーンとラスールッラーヒ、ムハンマド（アライヒ・アフダルッサラティ・ワッサラーム（1））のハディースに詳しく記されているのでそれをご参照ください。

### 3. アッラーが人間とジン（2）を創造なされた目的

頭脳明晰な読者よ、アッラーがあなたを創造なされ、あなたのラッブ（主）であられることを知ったならば、アッラーはあなたをいい加減に創造なされたのではなく、アッラーをイバーダ（崇拜）するためにあなたを創造なされたことを知らなければなりません。次のアーヤがそれを証明しています。

ذَكَرْ فِي (فِي) الذِّكْرِ تَنْفَعُ الْمُؤْمِنِينَ 55 خَلَقْتُ الْجِنَّ وَالْإِنْسَ لِإِعْبَادُونَ 56 مَا أَدْرِي مِنْهُمْ  
مَنْزَقٌ أَوْ مِمَّا أَنْ يُطْعَمُونَ 57 اللَّهُ هُوَ الرَّزَّاقُ ذَالِقُوا مَا كَانُوا

われがジンと人間を創造したのはわれを崇拜するためである。\*われはかれらにリズク（糧）を求めたり、かれらから食餌を授けられることを求めたりしない。\*本当にアッラーこそラッザーク（糧主）でもあられ、また強固な力の主でもあられる。（Q 51/56 – 58）

**アーヤの意味** 最初のアーヤでアッラーフ・タアーラーはご自身ジンと人間を、アッラーのみを崇拜するために創造なされたことをお伝えなされました。ご自身こそが糧の主であられるお方であるので、アッラーは僕からは何も必要とせず、また糧も求めておらず、食餌を授けられたりすることも求めていないことが最初のアーヤと次のアーヤで伝えられています。人間やその他のものに与えられる糧はご自身のみ許にしか存在していないのです。ご自身こそ雨を降らせ大地から多くの糧を産出されるお方なのであられます。

地上の他の理性を持っていない被造物については、これらは人間のために創造されたとアッラーフ・タアーラーはお伝えになっています。そしてそれは人間がアッラーのシャリーア（法）にそってこれらの被造物とかかわらせるためなのです。宇宙に存在するすべての被造物や法則は人間のために創造されたものです。

これらはアル・クルアーンの中で明らかにされている英知としてアッラーフ・タアーラーが人間に授けられたもので、イスラーム法学のウラマー（学者達）がその努力によってそれぞれの能力に応じて知っている分野です。寿命や糧や人生の違いは頭脳明晰な人間を試すためにアッラーの許しをもって授けられる報いの結果なのです。

アッラーのカダル（定命）に満足し服従しアッラーを満足させる仕事に精を出す者にはアッラーからの満足とドゥンヤー（現世）と死後のアーヒラ（来世）における幸福が与えられるのです。アッラーのカダルに満足せず、アッラーに身を委ねず服従しない者にはドゥンヤー（現世）とアーヒラ（来世）においてアッラーからの怒りと苦痛しかないのです。アッラーに満足を尋ね、アッラーの怒りからアッラーにご加護を乞いましょう。

#### 4. 復活と生前の行為と死後の報い

頭脳明晰な読者よ、アッラーを崇拝させるために人間であるあなたがアッラーによって創造されたことを知ったならば、次に使徒達に啓示された全啓典のなかで死後あなたを甦らせることをあなたに知らせたことも知らなければなりません。そして、死後アーヒラ（来世）であなたの行為に対してあなたにジャザー（報い）が与えられるのです。それは死をもって人間は実践の世界であるこの世から死後の永遠の住みかへ移動することを意味しています。人間の生存期間が終わったならば、アッラーは死の天使に肉体からルーフ（魂）を奪うよう命じられますが、この際人間は肉体から魂が出る前に死の苦しみを味わった後死ぬのであります。

魂に関してはアッラーを信じ服従していたならばアッラーは魂をジャンナ（楽園）に送られるでしょう。もしアッラーを信仰せず死後の復活（バース）とジャザー（報い）を偽りというならば、その人の魂はナール（業火）に送られるでしょう。最後の審判の日が来て、アッラーはすべての被造物が死んだのち、他の動物も含めて、すべての人間を復活させ、最初に創造なされたように肉体を完全に戻されてから、魂を肉体に戻され、男女、上下、貧富などの差にかかわらず、人々をヒサーブ（清算）しそれぞれの行為において報いるのです。アッラーは誰に対しても不正をされるようなことは決してなされません。不義を被った者にたいして不義を働いた者に報復なされます。動物に対してでさえも不義をなすものに報復されるのです。動物はジャンナにも入らなければナールにも入らないので、動物たちに「土になれ」と言うようにおっしゃるだけです。

人間やジンは各自の行為によって報われ、アッラーに服従し使徒達に従った信仰ある者は、たとえ最も貧しい者であったとしてもジャンナ（楽園）に入れてもらえるのです。アッラーの教えを偽りだといっている不信仰な者にはドゥンヤー（現世）で最も豊かで名誉ある者であってもナール（業火）に入れられるのです。アッラーフ・タアラーは次のようにおっしゃっています。

((إن أكرمكم عند الله أتقاكم))



﴿لَمَّ الَّذِينَ كَفَرُوا لَنْ يُبْعِدُوا قَوْلُ رَبِّي لِيَُبْعَثَنَّ الَّذِينَ ظَلَمْتُمْ يُبْعَثُونَهَا عَلِيمٌ ذُو الْبَاطِنِ﴾

背信となった者達はバース（復活）なんかあり得ないと主張した。言え。「そうではない [バースは必ずあるのだ]。わがラッブ（主）に誓って、あなたがたは再び生き返らされて、[過去]してきたことを告げ知らされるのだ。それはアッラーにとってまことにたやすいことなのである。」 (Q 64/7)

**アーヤの意味** アッラーフ・スブハーナフ・ワ・タアーラーは最初のアーヤではアッラーは人間を地上の大地から創造なされたことを伝えています。それはアッラーが人間の祖であるアーダムを土から創造なされたときのことでした。また、人は死後土の中の墓場で人間をカラーマ（尊厳）視して土に戻されることを伝えてくれています。そして、アッラーは再び最初の者から最後の者まで一人残らず墓場から連れ出して、かれらを清算しその結果ドゥンヤー（現世）での善行又は悪行によって報いるのです。

第2のアーヤでは復活を偽り人間の骨が死後生き返ることに驚いている不信仰な者に対してアッラーが答えていらっしゃいます。そして、アッラーこそ無から最初に骨を創られたお方である以上、当然骨も復活されるということを伝えていらっしゃいます。

第3のアーヤでは死後の復活を偽っている不信仰な者に対してかれらの主張は腐敗しているとアッラーが答えていらっしゃるのです。アッラーは使徒にアッラーこそかれらを生き返らせ自分たちがしてきたことを知らせそれ相当の報いを与えられることと、それがアッラーにとってたやすいことであることなどをアッラーに誓言するよう命じられました。

アッラーは他のアーヤで死後の復活とナール（業火）を偽っている不信仰な者を生き返らせたあと、ジャハンナム（地獄）のナールで懲罰をくらうということをアッラーは伝えていらっしゃいます。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

﴿وَأَمَّا الَّذِينَ فَتَقُوا فَمَا أَوْهَمُوا أَنَّهُمْ يُنْفَخُونَ كَمَا أَرَادُوا أَن يَخْرُجُوا مِنْهَا أَعْبِدُوا فِيهَا قَابِلًا لَهُمْ ذُقُوا عَذَابَ نَارِ الَّذِي كُنْتُمْ تُكَذِّبُونَ﴾

あなたがたが偽っていたアザーブナール（業火の懲罰）を味わえ。 (Q 32/20)

## 5. 人間の言行

アッラーフ・アッザ・ワ・ジャッラ (1) は隠そうが隠すまいが人間の言行の善い悪いを

何もかもご存知であることを伝えていらっしやいます。人間の言行は天地及び人間やその他の被造物を創造なされる以前、すでにご自身の許にある天板（アッラウフ・ル・マフフーズ）にすでに記されていることも伝えていらっしやいます。また、すべての人間の右の肩には善行を筆記する天使（マラク）と左の肩には悪行を筆記する天使とがいて、各天使に人間の行為を何ひとつ残さず筆記するよう委ねたことも伝えられています（2）。またアッラーフ・スブハーナはすべての人間は清算の日に人間のすべての言行が記された帳簿を渡され、自らそれを読み、もはや否定することは一切できないのです。それを否定した者はアッラーが悪事を働いてきた耳や目や両手や両足や皮膚にドゥンヤー（現世）でやってきたことすべてを言わせるのです。

次のアル・クルアーンの中のアーヤでそのことが詳しく記されています。

アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

يَلْفَظُ مِنْ قَوْلِ لَمَّا يَلَهُ رَقِيبًا تَيْدًا

〔人（3）は記録のために（4）〕手配された見張りの〔マラク（天使）〕の存在なしに一言も口を利くことはない。（Q 50/18）

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

وَإِنِّي لَمِّنْكُمْ لِحَافِظِينَ 10 رَامِكَا تَبِينَ يَلْعَلْهُمُونَ مَلْفَعًا لُونَ

あなたがた〔の左右の肩〕には見守って下さる〔マラク（天使）が〕見張っている。\*高潔なる書記たち。\*あなたがたがしていることを〔すべて〕知っている。（Q 82/10 - 12）

**アーヤの意味** アッラーフ・スブハーナフ・ワ・タアーラーはすべての人間の右の肩には善行を筆記する天使と左の肩には悪行を筆記する天使を配置され、それぞれに人間の行為をひとつ残さずに筆記するよう委ねたことも伝えられています（1）。アッラーは最後の2つのアーヤの中で、全人類のすべての行いを筆記することを高潔な天使達に託されたことを伝えていらっしやいます。アッラーが人間を創造する以前に既にみ許にある天板に人間のすべての行いを知り尽くしてすべてを記されていたように、天使達に人間のすべての行いを知り尽くさせ筆記させる力を与えられていたことも伝えられました。

**シャハーダ（証言）** わたしはアッラー以外に一切イラー（崇拝すべき対象）が存在しないことをシャハーダいたします。わたしはムハンマドがアッラーの使徒であることをシャハーダいたします。ジャンナ（樂園）も真でありナール（業火）も真であり、また最後の審判の時も間違いなくやってきます。アッラーは清算と報いのために墓場にいる者達を生き返らせます。アッラーがその啓典の中でまたその使徒に語らせて伝えたことすべては真

です。わたしはこれらすべてをシャハーダいたします。

頭脳明晰な読者よ、あなたがこのシャハーダを信仰しこれを公にシャハーダしてこのシャハーダの意味を文字通り実践することをあなたに要請いたします。まさにこれこそ救いの道なのです。

## 第2章

### 使徒を知る

#### 1. 偉大なる使徒（1）

頭脳明晰な読者よ、アッラーこそあなたを創造なされたあなたのラッブ（主）であることと、次にあなたの行為に見合った報いを受けるためにあなたを死後甦らせられることを知ったならば、アッラーはあなた及びすべての人々に使徒を遣わされ、使徒に服従し追従するよう命じられたことを知るべきです。この使徒に従うことと、かれに託されたシャリーア（法）をもってアッラーを崇拝することしか正しい崇拝への認識への道がないことも伝えていらっしやいます。

すべての人が信仰し追従しなければならない高潔なこの使徒こそ使徒達の封印（ハータム・ル・ムルサリーン）であり、全人類へ遣わされた使徒なのです。キリスト教徒やユダヤ教徒が福音書や律法を粗末に扱ったり改竄（かいざん）したりする以前にかれらが読んでいたこの2聖典のなかで40箇所以上にわたってムーサー（モーゼ）やイーサー（イエス）が文盲であられた使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の出現の吉報を伝えていたのでした。

使徒達の封印としてまた全人類に遣わされたこの高潔な使徒こそクライシュ族の中の一氏族であるハーシム家のムハンマド・ブン・アブドゥッラー・ブン・アブドゥ・ル・ムッタリブ・アルハーシミー・アルクラシーと呼ばれた方なのです。地上における最も名誉ある部族の中で名誉と信頼が最も厚かった方であられました。かれは預言者イブラーヒームの子息であった預言者イスマーイールの血筋を引いた方であられました。預言者達（2）の封印（ハータム・ル・アンビヤー）であられるムハンマド（アライヒッサラート・ワッサラーム）はマッカに570年に生まれました。生まれた夜母の体内から産声をあげられた瞬間、全宇宙を偉大なる光（ヌール）が照らし、全人類を驚かせ史書にこの偉大なる出来事が記されたのでした。マッカのカーバ神殿で崇拝されていたクライシュ族の偶像は破壊

されました（1）。ペルシャ皇帝の権威は揺れ動きその榮譽は数年で地に落ちました。それまで2千年間燃え続けペルシャが崇拜の対象としてきた火は消えたのでした。

これらすべては預言者達の封印の誕生をもってアッラーフ・タアラーからの地上の住民に対してなされた宣言でした。これはまたアッラーを度外視して崇拜されてきた偶像を破壊し、ペルシャ人やビザンティンの人々に唯一神であられるアッラーへの崇拜を説くとともにアッラーの真理の教えに入るよう呼び掛けた人物の誕生を知らせる吉報でもありました。かれらがこの真理の教えを拒んだとき、かれとかれと一緒に苦楽を共にしてきた追従者達（2）はかれらとジハード（3）を交えたのでした。またアッラーはかれに対しかれを援助し、地上の光である真理の教えを広めたのでした。これら一連の事件はアッラーが使徒ムハンマドを遣わされたのちに起こった史実でした。

アッラーは以前に遣わされた他の使徒達と使徒達の封印であられるムハンマドとを次の点において選別されました。

- (i) 使徒達の封印であって、かれの死後使徒又は預言者は出現しない。
- (ii) 全人類への啓示として普遍化。

人類はすべてムハンマドのウンマ（共同体）の一員で、ムハンマドに服従し追従した者達はジャンナ（樂園）に入れる者達なのです。かれに逆らった者達はナール（業火）に入れられてしまうのです。ユダヤ教徒やキリスト教徒でさえもかれに追従することを課せられているのです。かれに追従せず信仰しない者達はムーサー（モーゼ）やイーサー（イエス）及びすべての預言者達に対しても背を向けることになるのです。ムーサーやイーサー及びすべての預言者達はムハンマド（アライヒッサラーム）に追従しないすべての人間とは無縁なのです。

アッラーはかれらにムハンマドが預言者として遣わされるという吉報を伝えることと、各民族にアッラーがかれを遣わされたならばかれに追従することを説くよう命じられたからです。アッラーが啓示した教えこそアッラーが他の使徒達に啓示した教えであるからです。アッラーはその教えの完璧さと寛大さを使徒達の封印であるこの高潔な使徒の時代に達成させたのでした。イスラームは過去のすべての教えに取って代わった完璧な教えであり一切の偽りもない真理の教えであるが故、ムハンマドが遣わされた後かれに啓示されたイスラーム以外の教えを信仰することは誰にも許されていないのです（1）。

ユダヤ教徒やキリスト教徒に関してその教えはアッラーが啓示されたものとは異なって、改竄（かいざん）されたものなのです。ムハンマドに追従するすべての者はムーサーとイーサー及び他のすべての預言者達の追従者と見なされるのです。たとえムーサーとイーサーの追従者だと言われたとしても、イスラームを信仰しない者はすべてムーサーとイーサー

及びすべての預言者達に背を向けた背信の徒なのです。

このため頭脳明晰なユダヤ教徒やキリスト教徒の聖職者達の一団は急きょムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の預言を信仰しイスラームに入信したのでした。

## 2. 使徒（1）の奇跡（ムウジザート）（2）

預言者伝（スィーラ（3））の学者達は啓示の真正さを示す使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）にまつわる奇跡が千以上にも上ることを確かめました。ここにそのいくつかをご紹介しますと思います。

(i) 「ムハンマドッラスールッラー（ムハンマドはアッラーの使徒）」という言葉が御両肩の間に発疹のように出て、預言の封印となったこと。

(ii) 夏の暑い中を歩かれるさい、雲で影を作って下さること。

(iii) 両手の中で小石が賛美し、木がかれに挨拶すること。

(iv) 宇宙の終末に起こるだけではなく、今も少しづつ起こっているガイブ（不可知なる世界）の事情について知らされていること。

使徒達の封印であられるムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の死後、この世の終末までに起こるべきガイブのことは、アッラーが既に使徒に示されたのでした。ハディース（4）（伝承）や最後の審判の前兆（アシュラートッサーア）に関する書物のなかで伝えられています。たとえばイブン・カスィールの『アッニハーヤ（終末）』や『アル・アフバル・ル・ムシャア・フィー・アシュラートッサーア（最後の審判の前兆に関する広く知られた話）』やその他のハディース書等の中に見られます。これらの奇跡は使徒よりも以前の諸預言者の奇跡に似ています。しかしながら、アッラーは終末にいたるまで続く理性に基づいた奇跡、しかも他の使徒達には授けられることがなかった奇跡を使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に授けられました。それはアッラーのみ言葉である『アル・クルアーン』でした。アッラーはそれを擁護されることを引き受けられました。改竄する者の手がアル・クルアーンにとどくことはできません。たとえ誰かがその一文字でも変えようと思ったならばすぐに分かっしまいます。ムスリムの手にはアル・クルアーンの写しが何億とありますが、たとえ一文字であろうと他と異なることは決してありません。一方、アッラーがユダヤ教徒やキリスト教徒に信託させたところ、ユダヤ教徒やキリスト教徒は律法や福音書をもてあそび改竄してしまっ

たために、その写しはいく種もありそれぞれ互いに異なってしまっているのが現状です。  
アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

﴿نَحْنُ نَزَّالَتَا كَرًا وَإِلَّاهُ الْحَقَّاطُونَ﴾

本当にわれらはズィクル（訓戒（1））[アル・クルアーン]を啓示した。われらこそ本当にその擁護者である。（Q 15/9）

### 3. アル・クルアーンがアッラーフ・タアーラーのみ言葉であることとムハンマドが使徒であることの合理的証明と証拠

アル・クルアーンがアッラーフ・タアーラーのみ言葉であることとムハンマドがラスールツラー（使徒）であることを示す論理的かつ合理的な証明には次のような事例があります。クライシュ族やクライシュ族以外の過ぎ去った過去の諸ウンマに遣わされたアンビヤー（使徒達）を嘘つき呼ばわりした者達のように、ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）を嘘つき呼ばわりし、アル・クルアーンはアッラーのみ言葉ではないと言ったとき、アッラーがクライシュ族の背信の輩（やから）に挑戦された事例があります。

このとき、アッラーはかれらにこれと同じものをもってこいと挑戦されたとき、アル・クルアーンがかれらの言葉で啓示され、当時最も雄弁で有能な雄弁家や卓越した詩人達がかれらたちの中にいたにも関わらず、かれらたちはこれに応えることは出来なかったのです。アル・クルアーンと同じ10のスーラをもってくるようかれらに突きつけたのですが、それはたとえでっち上げたものでさえも出来なかったのです。それで、今度は1アヤでよいからもってくるようかれらに突きつけたのですが、かれらはできなかったのです。かれらの無能が明らかになったのです。

すべてのジンとインス（人間）は、互いに協力しようとしたとしても、これと同じものをもってくることは出来なかったのです。アッラーフ・スブハーナは次のように伝えていらっしゃいます。

﴿أَفَلَا اجْتَمَعَتِ أُمَّةٌ مِّنْهُنَّ أَوْ الْجِنُّ عَلَىٰ أَتْوَابٍ مِّثْلِ هَذَا أَفَلَا يَلْتَمِزُونَ لَوْ كَانَ بَعْضُهُمْ لِبَعْضٍ هَادِيًا﴾  
﴿لِبَعْضٍ هَادِيًا﴾

言え。「このようなアル・クルアーンをもってこれると、インス（人間）とジン（精霊）が〔一丸となって〕集まってもこのようなもの〔アル・クルアーン〕をもたらしことはできない。たとえ〔かれらが〕互いに協力したとしても。」（Q 17/88）

もしアル・クルアーンがムハンマドやかれ以外の人間の言葉であったとしたならば、かれ以外の雄弁な言葉の達人がそれと同じものを持ってくることが出来たことでしょう。しかしそれはアッラーフ・タアーラーのみ言葉で、アッラーご自身が人間以上に比類なく卓越していらっしゃるように、アッラーのみ言葉は人間の言葉以上に比類なく卓越され、比類なき高貴であられるのです。

アッラーには類似したものは存在していませんので、アッラーのみ言葉も当然それに類似したものはないのです。従って、アル・クルアーンはアッラーフ・タアーラーのみ言葉で、ムハンマドはラスールッラー（アッラーの使徒）であることは自明であります。アッラーのみ言葉はアッラーのみ許から遣わされた使徒以外にはもたらされなかったからです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((مَّا كَانَتْ هُدًىٰ أُمَّةٌ مِّنْ جَمَاعٍ وَلَكِن سَأَلُوا اللَّهَ وَخَمَّاتَيْنِ بِهِ كَمَا كَانَ اللَّهُ بِلِكُشْيِ عِٰى عَظِيمًا))

ムハンマドはあなたがた男達の誰の父親〔というの〕ではなくて、ラスールッラー（アッラーの使徒）でありハータムンナビーーン（預言者達の封印（1））である。アッラーは全知であられるお方。（Q 33/40）

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((أَوْرَسُولُنَاكَ إِلَّا كَفَّٰ لِنَبِيٍّ أَبْشِيرًا وَنَذِيرًا لِّكَوْنٍ أَكْثَرَ مَلِكًا لَا يَعْلَمُونَ))

われらがあなたを全人類にたいしてバシール（吉報の伝達者）としてまたナズィール（警告者）として遣わしたのだ。だが、大部分のひとは〔そのことを〕理解していない。（Q 34/28）

アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((إِن هَٰؤُلَاءِ لَبَلَاغًا لِّقَوْمٍ عَبْدِينَ 106 وَأَمْرًا مِّنَّا لِكَلِمَةٍ لِّلْعَالَمِينَ))

われらは万物へのラフマ（慈悲）として、あなたを遣わしたのだ。（Q 21/107）

アーヤの意味 アッラーフ・タアーラーは最初のアーヤで次のように伝えられています。

ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）は全人類に遣わされたアッラーの使徒であることと、アッラーの預言者達の封印で、かれ以後に預言者は存在しないことと、かれが人類の中で最も敬虔な人物であることを知っていらっしやったので、アッラーはかれをアッラーの使命を果たさせるために選んだことなどが伝えられています。

また次のアーヤでは皮膚の色の区別なくまた民族の区別なく全人類のためにムハンマドをアッラーの使徒として遣わされたことと、多くの人々はハック（真理）を知らず、その結果ムハンマドの教えに追従しなかったために迷い不信仰の輩となったことが伝えられています。

第3番目のアーヤでは使徒であるムハンマド（アライヒッサラーム）に直接呼びかけ、使徒こそまさに人類に授けられたアッラーのラフマ（慈悲）で、全人類にアッラーのラフマとして遣わされたことが伝えられています。かれを信じ受け入れた者はアッラーの慈悲を授けられ、ジャンナ（楽園）が与えられ、ムハンマドを信ぜず追従しなかったものはアッラーの慈悲が絶たれナール（業火）と激しい懲罰（アザーブ）が当然のここととして与えられるのです。

#### 4. アッラーとムハンマドのイーマーン（信仰）への呼び掛け

頭脳明晰な読者よ、アッラーをラッブ（主）として、またその使徒であるムハンマドを使徒として信仰するようあなたに呼び掛けているのです。そして、この教えに従い、アッラーのみ言葉であるアル・クルアーンと使徒達の封印であられるムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のハディースを源泉とするイスラームの教えであるシャリーア（イスラーム法）をもって実践することをあなたに呼び掛けているのです。

アッラーはかれを守られたからで、アッラーのご命令以外には命じられず、アッラーが禁じたもの以外は禁じられません。誠実な心で次の言葉を唱えてごらんください。「アッラーこそ我がラッブ（主）で唯一なる崇拝の対象であることを信じます。」また、次のように唱えてごらんください。「ムハンマドはアッラーの使徒であることを信じ従います。」これ以外には読者であるあなたには救いはないのです。アッラーよ、わたくしに成功を与えたまえ。あなたにこそ幸福があり救いがあります。アーミーン。

## 第3章

### 真理の教え『イスラーム』を知る

#### 1. イスラームへの招請

頭脳明晰な読者よ、アッラーフ・タアーラーこそあなたを創造なされたことを知り、糧を授けられたあなたのラッブ（主）であることを知り、かついかなる同伴者も持たぬ唯一なる真のイラー（崇拝の対象）であることなどを知りました。そして、アッラーのみを崇拝しなければならないことと、ムハンマドがあなた及び全人類に遣わされた使徒であることを知ったならば、イスラームの教えを知り信仰し実践して初めて、アッラーフ・タアーラーとその使徒ムハンマド（アライヒッサラート・ワッサラーム）へのあなたの信仰が正しいものとなることを知らなければなりません。それはアッラーフ・タアーラーが満足され、諸使徒に広めるよう命じられ、かれらの封印としてムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）を全人類に遣わし、実践するよう説いた教えだからです。

#### 2. イスラームの意味

使徒達の封印（ハータム・ル・ムルサリーン）であられる全人類に遣わされたラスールッラー（アッラーの使徒）は次のようにおっしゃいました。

تشهد أن لا إله إلا الله و أن محمدا رسول الله و تقيم الصلاة و تؤتي الزكاة و تصوم رمضان و تحج البيت إن استطعت إليه سبيلا

《「イスラームとはアッラー以外にイラー（崇拝の対象）はなくムハンマドはアッラーの使徒」とシャハーダ（証言）しサラ（礼拝）を行いザカー（浄財の供出）をしラマダーン月のサウム（断食）をし、もし可能であるならばハッジ（カーバ神殿への巡礼）をすることである》と（1）。

イスラームとはアッラーが全人類に崇拝するよう命じられた世界的な教えなのです。諸使徒が信仰しアッラーへの服従を唱え、アッラーがイスラームこそディーヌ・ル・ハック（真理の教え）であり、イスラーム以外はアッラーは誰からもディーン（教え）を受け入れられないと宣言されました。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

アッラーのみ許にあるディーン（教え）こそイスラームである

((إِنَّ يَلَّ عِنْدَ اللَّهِ إِسْلَامُ))

(Q 3/19)

アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((وَوَعَيْتُكَ إِسْلَامٌ دِينًا فَلَمَنْ لَقِيَ مِنْهُ وَهُوَ فِي الرَّحَّةِ مِنَ الْخَاسِرِينَ))

イスラーム以外に〔他の〕ディーン（教え）を求める者は決して受け入れられない。アーヒラ（来世）では失敗者なのだ。(Q 3/85)

**アーヤの意味** 最初のアーヤではアッラーのみ許にあるディーン（教え）はイスラームしかないということが伝えられ、もうひとつのアーヤではアッラーはイスラーム以外誰からもディーン（教え）を受け入れられないということが伝えられています。死後幸福を得るものはムスリムだけなのです。イスラーム以外の教えで死んだものはアーヒラ（来世）において失敗者で、ナール（業火）で罰せられるのです。

このためすべての預言者達はアッラーへの服従（イスラーム）を宣言し、アッラーに服従していない者とは無関係であることを宣言したのです。救い（ナジャー）と幸福を望むユダヤ教徒達やキリスト教徒達が本当にムーサーやイーサー（イエス）の追従者になるためにはイスラームに入ってイスラームの使徒ムハンマド（アライヒッサラート・ワッサラム）に追従すべきなのです。ムーサーやイーサーやムハンマドそれに他のすべての使徒達もムスリム（アッラーへの追従者）で、イスラーム（アッラーへの服従）を説いたのでした。イスラームは既に使徒達に遣わしたアッラーの教えと同じなのです。使徒達の封印であるムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）が遣わされた後、いかなる預言者もこの世の終末まで現れず、従って預言者と名乗ることは違法で、まして自らムスリムであるなどと唱えることはもうどう正しいということではできません。しかし、アッラーのみ許から遣わされた使徒ムハンマドを信仰し従い、アル・クルアーンの教えを実践した場合を除いてアッラーはこういう人達のイスラームを受け入れることは決してありません。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((قُلْ إِنِّي أُنذِرُكُمْ تَحِبُّونَهُ لَفَأَتَبِعُونِي جُنُودًا اللَّهُ وَمَيِّمٌ لَكُمْ ذُبُوكُلْمُهُ وَعَفْوٌ رَحِيمٌ))

言え。「もしあなたがたがアッラーを愛するならば、わたしに従いなさい。〔そうすれば〕アッラーはあなたがたを愛しあなたがたの罪を赦されることでしょう。」アッラーはガフルッラヒーム（罪を赦し慈悲深いお方）である。(Q 3/31)

**アーヤの意味** アッラーはアッラーを愛しているなどと放言する者に「もしアッラーを本当に愛しているならばわたしに従いなさい。そうすればアッラーを愛するであろう。だがアッラーはその使徒ムハンマドを信仰し追従した場合を除いて本当にあなたがたを愛することはなく、またあなたがたの罪を赦されることもないのだ」と言うようにその使徒ムハンマドに命じていらっしやいます。

アッラーが全人類に遣わされた使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に託されたこのイスラームの教えこそ完璧かつ過去のすべての啓示を包括された寛大なイスラームの教えなのです。イスラーム以外の教えしか受け入れられない全人類の教えとしてアッラーが完結させ撰ばれた教えなのです。そしてこの教えこそ過去の預言者達が広めた教えなのです。

لَوَأْوَأْتُمْ كَمَا لَمْ تَدِينُوا لَمْ تَدِينُوا أَمْ تَمْتَقُوا عَمَّا نَكُفُّمُ تِي وَرَضْمُ يَلِكُ لِكَلَامٍ دِينًا فَمَنْ اضْطُرَّ فِي  
مَخْمَصِيئُرْ غَمْتِ جَانِلِيْمُ إِفَائِنَ اللّٰهَ غُورٌ رَّحِيمٌ

本日われはあなたがたにあなたがたのディーン（教え）を完成させた。われのニウマ（恩寵）をあなたがたの上に完了し、あなたがたのためにイスラームを〔真理の〕ディーンとして撰んだ。（Q 5/3）

**アーヤの意味** アッラーフ・タアラーは使徒達の封印であられるムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に啓示されたこのアーヤの中で、別離の巡礼(1)（ヒッジャトウ・ル・ワダー）のさいマッカ郊外のアラファートでムスリム達と一緒に立礼され、アッラーを祈念されたことが伝えられています。これは、アッラーがかれを援助され、イスラームが広まりアル・クルアーンの啓示が完成の域に達したときで、使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の人生の最後でありました。

さらにこのアーヤではアッラーフ・スブハーナはムスリムにたいしディーヌ・ル・ハック（真理の教え）を完成され、使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の派遣とアル・クルアーンの啓示をもってムスリム達の頭上にアッラーの恩寵を完結されたことが伝えられています。また、決して不満も起こらず、ディーヌ・ル・ハック（真理の教え）としてイスラーム以外は誰からも受けいれられず、アッラーの教えとしてムスリムらにイスラームが撰ばれたことが伝えられています。

全人類のために使徒ムハンマドに託されたイスラームこそ時空を越えてあらゆるウンマに適合するすべてのことが包括された完璧な教えであります。それは科学、寛容、正義、善などが包含された教えなのです。ありとあらゆる生活分野に渡って意義ある完成された明解なミンハージュ（1）が説かれた教えです。イスラームは統治、司法、政治、社会、経済及び人類がドゥンヤー（現世）で必要とするすべてに真の生活設計が含まれたディーン即ち倫理とダウラ（国家）の不可分の教えであります。イスラームはまた死後のアーヒラ

(来世)でのムスリムの幸福が約束されている教えでもあります。

### 3. 五柱

アッラーが使徒ムハンマド（アライヒッサラト・ワッサラーム）に託された完璧なイスラームは五柱に基づいています。下記に示すこれらすべてを信仰し実践して初めて本当のムスリムということができるのです。

(i) 「「アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、ワ・アンナ・ムハンマダッラスールッラー（わたしはアッラーの他にイラー（2）は一切存在せず。ムハンマドはアッラーの使徒であることを証言する）」とシャハーダ（証言）すること。

(ii) サラー（礼拝）を行うこと。

(iii) ザカー（浄財の供出）を実践すること。

(iv) ラマダーン月にサウム（断食）をすること。

(v) もし可能であれば、マッカへハッジ（巡礼）を行うこと。

#### [1] 第1の柱：シャハーダ（証言）

**シャハーダの意味** このシャハーダにはムスリムが知り実践しなければならない意味が含まれています。口にして言うことは出来てもその意味も知らず実践もしない者は、この言葉から何も得られないのです。ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラーの他に崇拝すべき対象はない）という文言の意味はこの地上においても天空においても唯一無二のアッラー以外に真に崇拝の対象となるものは一切存在しないという意味なのです。アッラーこそ真の崇拝の対象なのです。アッラー以外のありとあらゆるイラー（崇拝の対象）はすべて偽りであります。イラーとは崇拝を受けるもの（マアブード）という意味なのです。

アッラー以外を崇拝するものは不信仰者（カーフィル）であり、多神教徒（ムシュリク（1））であります。たとえ崇拝の対象が預言者であったりあるいは敬虔な信者であったりしたとしても、またアッラーに近づくという口実として崇拝したとしてもアッラーにはその信仰は受け入れてもらえないのです。なぜなら使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）と戦った多神教徒達はアッラーに近づくという口実で過去の預言者達や聖者と称される人たちを崇拝してきたからです。しかし、この口実は間違っていて決して受け入れることの出来ない口実でした。アッラーフ・タアラーに近づいた

りそのワスィーラ（手段）としたりすることがアッラーへの崇拜の証として、アッラーの名称とその属性を信じ、またサラ（礼拝）、サダカ（喜捨）、ズィクル（祈念）、サウム（断食）、ジハード（30頁の脚注参照）、ハッジ（巡礼）、親孝行などのようなアッラーが命じられた立派な行いや兄弟のためにドアー（祈願）をする際の信仰ある者のドアーをもってアッラーに近づくことでなければなりません。

## <<イバーダ（1）の種類>>

### （1）ドアー（祈願）

イバーダのひとつで、アッラーフ・タアーラーしか実現してもらえないことをどうしても実現してほしいことをアッラーにお頼みすることをドアーといいます。たとえば慈雨や病人の回復を願ったり悲しみを除去したりジャンナ（樂園）を求めたり、ナール（業火）からの救いを求めたり、子供や糧や幸福を求めたりするときにドアーをします。

これらのことはすべてアッラーのみにしか求めないのです。たとえ生きていようが死んでいようが被造物から何かを求めようとする者は被造物を崇拜したことになるのです。アッラーフ・タアーラーは僕にアッラーにのみドアーをすることを命じられています。ドアーはイバーダ（崇拜）であってアッラー以外にドアーをした者はナール（業火）の住人となるとアッラーフ・タアーラーは伝えて次のようにおっしゃっています。

قَوْلَ رَبِّكُمْ ادْعُونِي سَتَجِدُنِي كَاشِفًا عَنْكُمْ صُرَاتِي وَمَنْ يَدْعُنِي إِلَىٰ سِوَايَ فَلْيُحْمَلْ أَسْرَتَهُ إِنَّ الَّذِينَ يَكْفُرُونَ عَنِ النَّارِ هُمْ فِيهَا كَالِحُونَ

あなたがたのラッブ（主）はおっしゃった。「われを呼べば、われはあなたがたに応える。」わがイバーダ（崇拜）をおごり高ぶる者は屈服して（2）ジャハンナム（地獄）に入るであろう。（Q 40/60）

たとえどの預言者であろうと敬虔な信徒であろうと、益も害もないものにたいして、アッラー以外に誰もドアーの対象にしてはならないことを伝えて、次のようにおっしゃっています。

لَا تَدْعُوا لِلَّذِينَ هُمْ عَنْ آلِهَتِهِمْ تَفْتَنُونَ كَمَا دَعَوْتُمْ بِآلِهَتِكُمْ إِذْ كُنْتُمْ كَافِرِينَ

言え。「かれ [アッラー] を差し置いてあなたがたが主張している [神々を] 呼びなさい。これらはあなたがたから災いをとってくれる [力も] なければ変える [力も] ないのだ。」（Q 17/56）

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

أَنْزَوَالْمَسَاجِدَ فَلَمَّا تَدْعُوهُمْ عَلَيْنَا أَحَدًا))

[すべての] マスジドはアッラーのもの。アッラーと一緒に [並べて他の] いかなるものをドーア（祈願）してはならない。（Q 7 2/1 8）

## （2）犠牲と誓い（ナズル）

人間はアッラー以外に屠畜をクルバーン（1）として捧げたり、また誓い（ナズル（1））を立てたりすることは許されていません。アッラー以外にたとえば故人やジン（2 2 頁以下及び脚注参照）に捧げるかのように動物を犠牲にして屠畜をしてはなりません。もししたとしたならばアッラー以外に崇拝したことになり、アッラーの呪があるのは当然であります。アッラーフ・タアラーは次のようにおっしゃっています。

﴿قُلْ إِضْلَافَتِي فُسُوكُمِي حَيَايَ وَفِي اللَّهِ رَبُّ الْعَالَمِينَ 162 شَرِيكَ لَهُ بُؤَالِكُمْ مَرْتُونَ أَنَا  
أَوَّلَ الْمُسْلِمِينَ﴾

言え。「わがサラ（礼拝）とわがヌスク（宗教儀礼）とわがラッブ（生）とわが死はラッブ・ル・アーラミーン（万有の主）アッラーのためにある。\*彼にシャリーク（同伴者）は一切存在しない。このようにわたしは命じられた。わたしはムスリムの筆頭者である。」（Q 6/1 6 2 - 1 6 3）

次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : ((لعن الله من ذبح لغير الله))

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃいました。『アッラー以外に [捧げて] ザブフ（屠畜）した者をアッラーは呪う。』（ムスリム（2））

「もしある人が私のためにこれこれをしてくれるならば、わたしはこれこれを喜捨する」とか、「これこれをするとその人に誓います」というこの誓い（ナズル）は多神崇拝（イバーダトゥッシルク）なのです。なぜならこのナズルは被造物に対するものだからです。しかしナズルはアッラーに対してのみ行うイバーダ（1）（行）です。また、ナズルはイスラーム法で定められています。正しくは次のように言うべきです。「もしアッラーが私のためにこれこれをして下さいましたならば、わたしはこれこれを喜捨します」あるいは「これこれをするアッラーに誓います」というべきです。

## （3）援助と庇護

唯一無二のアッラー以外からは援助や悪魔退散を求めてはなりません。アッラーフ・タアラーはアル・クルアーンのなかで次のようにおっしゃっています。

﴿إِلَٰهَ الْغَيْبِ وَإِيَّاكَ تَسْعِينُ﴾

われらはあなた [アッラー] のみ崇拜し、あなたにのみ助けを求める (Q 1/5)

﴿قُلْ أَعُوذُ بِرَبِّ الْفَلَقِ ۝۱ مِنْ شَرِّ مَا خَلَقَ﴾

言え。「わたしは暁のラッブ (主) にご加護を乞う。\*創造されたもののシャッル (悪) から。 (Q 1 1 3/1-2)

次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : ((إنه لا يستغاث بي وإنما يستغاث بالله))

使徒 (ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) はおっしゃいました。『わたしに助けを求めるのではなく、アッラーに求めるべきだ。』 (アッタバラーニー (1))

また、次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : ((إذا سألت فاسأل الله وإذا استعنت فاستعن بالله))

使徒 (ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) はおっしゃいました。『もしあなたが請うなら、アッラーに請え。助けを求めるならばアッラーに助けを求めよ。』 (アッティルミズィー (2))

現に生きている人に助けを求めることは正しいのですが、人に助けを求めることはあくまでもその人の能力の範囲内として考えた場合です。加護を乞うこと (イスティアーザ) はアッラーしか求めてはなりません。死者などに助けを求めたりすることは一切してはなりません。たとえ預言者であろうと敬虔なムスリムであろうと王であろうとかれらに助けを求めたりすることは一切してはならないのです。かれらにはいかなる権威も持ち合わせていないからです。

ガイブ (不可知なる世界) はアッラーしか知りえないからです。ガイブを知っているなどと主張する者はカーフィル (不信仰者) で、もし知っているなどと主張すれば、それは偽りにほかならないのです。もしあることを占ったとしたらそれはいかさまのたぐい以外の

なにもものでもありません。

次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : ((من أتى كاهنا أو عرافا فصدقه بما يقول فقد كفر بما أنزل على محمد))

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃいました。『巫女あるいは占い師のところへ行って言うことを信じた者はムハンマドに啓示されたもの [アル・クルアーン] を信仰しない者である。』（アフマド（1）及びアル・ハーキム（2））

#### （4）タワックル（委任）・期待・謙虚

人はアッラー以外にタワックルしてはなりません。アッラー以外からは何事も期待してはなりません。またアッラーにのみ畏れを抱かなければなりません。残念なことにムスリムと称する人たちの多くはアッラーをさしおいてシルク（多神崇拝）を行っています。アッラー以外に目上の者や墓の周りをまわり死者に様々なことを頼み事をするのはシルクの行為なのです。たとえムスリムと主張し「アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、アシュハド・アンナ・ムハンマダッララスールッラー（アッラー以外に崇拝の対象はなく、ムハンマドはアッラーの使徒である）」と証言しサウム（断食）やハッジ（巡礼）をしたとしても、この様な行為（3）をする者達はムスリムではありません。アッラーフ・タアラーは次のようにおっしゃっています。

﴿لَقَدْ أُوحِيَ إِلَيْكَ وَإِلَى الَّذِينَ مِن قَبْلِكَ أَن لَّئِن كُنْتُمْ تُحِبُّونَ اللَّهَ فَاتَّبِعُونِي يُحْبِبْكُمُ اللَّهُ وَيَغْفِرْ لَكُمْ ذُنُوبَكُمْ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ﴾

あなたとあなたよりも以前の人々に啓示された。「もしあなたがシルク（多神崇拝）を行ったならば、あなたの行為は地に落ち失敗者のひとりとなるであろう。」（Q 3 9/6 5）

また、アッラーは次のようにおっしゃっています。

﴿قُلْ كَفَرَ بِاللَّهِ مَنْ فَعَلَ مِثْلَ مَا عَمِلْتُمْ لِي فَلْيَكْفُرْ بِهِ إِنَّ اللَّهَ يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ﴾

アッラーをさしおいて他のものを崇拝する者にはアッラーはジャンナ（樂園）を禁じられ、マーワー（行きつくところ）はナール（業火）である。不義をなす者にはアンサール（援助者）はいない。（Q 5/7 2）

アッラーフ・タアーラーはその使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に次のアーヤを人々に伝えるよう命じられました。アッラーは次のようにおっしゃっています。

لَوْ أَنَّمَا نَتَّبِعُ لَكُمْ يُوْجِئِيَّ أَنْزِلًا مِّمَّكُمْ لَحَدَّثُوا لِمَنْ كَانَ لِيُقَوِّمُوْهُ فَلْيَعْمَلْ عَمَلًا  
صَالِحًا وَلَا يُشْوَكَ الذُّبَّةَ رَبَّهُ أَحَدًا))

言え。「わたしはあなたがたと同じバシヤル（人間）なのだ。あなたがたのイラー（崇拝の対象）はひとつのイラー [アッラー] しか存在しないのだとわたしに啓示された。ラッブ（主）に出会いたいと願う者は立派な行いをし、ラッブのイバーダ（崇拝）にさいし他のものをイバーダしてはならない。」（Q 18/110）

これらのことについて無知なる者達は悪と迷いの虫に取り付かれた学者達によってだまされているのです。これらの学者達は枝葉的なものに詳しくディーン（教え）の基盤とも言うべきタウヒード（アッラーの唯一性）についてはまったく何も知らないのです。これらの学者達は無知からタウヒードを広めるつもりでシャファアーア（執りなし）やワスィーラ（手段）の名においてシルクを語るようになったのです。かれらは古今を問わず使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）にたいして偽ったある特定のハディースやシャイターンをこっそり入り込ませた夢物語を語ったり、シャイターンやハワー（誘惑）に追従したりしてきたのです。そして、かれらはこれに類似した昔の多神教徒達の時の状況と同じように先祖を盲目的に模倣する多神崇拝を肯定させる目的で、かれらの著作の中で蒐集した様々な誤った曲解でもって無知なる者達を論破したのでした。

(( وابتغوا إليه الوسيلة ))

かれ [アッラー] にのみ [アッラーに近づく] ワスィーラ（手段）を求めよ。（Q 5/35）

上述のアーヤにもあるようにアッラーが求めるよう命じられたワスィーラ（手段）とはタウヒード（アッラーの唯一性）からくる立派な行いのことです。サラ（礼拝）、サダカ（喜捨）、スィヤーム（断食）、ハッジ（巡礼）、ジハード（30頁の脚注参照）、善行を命じたり悪事を禁じたりすること、そして親類関係の維持などを指します。不幸や悲嘆に見舞われたさい、死者へのドーア（祈願）や死者を通して助けを求めたりすることは多神崇拝なのです。

アッラーがシャファアーア（執りなし）を許されている預言者達や敬虔なムスリム、その他のムスリムのシャファアーアはハック（真）でわれわれはそれを信じていますが、死者からは決して求めてはならないのです。それはアッラーフ・タアーラーの許しなくしては誰も得ることの出来ないアッラーの大権だからです。アッラーの唯一性を信仰している者は「アッラーよ、あなたの使徒及びあなたの敬虔な僕達の執りなしがわたしに授かれますよ

うに」とアッラーフ・タアーラーに祈るのであって、決して死者に向かって「誰々よ、わたしのために執りなしてください」と祈ってはなりません。死者には何も求めてはならないからです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((قُلِّلَهُ الشَّفَاعَةُ جَمِيعَةً مِّنَ الْمَلَائِكَةِ سَمَآوَاتٍ وَالرُّضِ ذُلَيْلًا بِرَبِّهِ رُجْعُونَ))

言え。「シャファア（執り成し）[の許しの大権] はアッラーにこそすべて属する。天と地のムルク（主権）もアッラーに属する。そして、あなたがたは [すべて] かれ [アッラー] の許に戻される。」 (Q 39/44)

アル・ブハーリーとムスリムの真正なハディース（1）及びその他のハディースのなかでラスールッラーヒ（サッラッラーフ・アライヒ・ワサッラム）が禁止され、イスラームではハラーム（非合法）とされているビドア（86頁の脚注参照）にマスコド（モスク）を墓場としたり墓の上に文字を彫ったプラスターをおいたり墓に幕を掛けたりするなどがあります。墓地でサラ（礼拝）を挙げたりする行為もビドアです。これらの行為はすべてラスールッラー（サッラッラーフ・アライヒ・ワサッラム）によって禁止されました。それは多神教徒達が崇拜の対象としていたことが最大の理由でした。

このことからシルクとは多くの国で見られる無知なる者達が墓場で行っている行為そのものなのです。たとえばエジプトのアル・バダウィーの廟、アッサイダ・ザイナブの廟、またイラクのアル・ジーラーニーの廟、またイラクのアンナジャフやカルバラーにあるハーシム家のものとされる廟、その他多くの廟があげられます。墓の周りを回って死者に様々な必要なことを願ったり吉凶を占ったりしている例などこれら全ての行為は多神崇拜なのです。

このような行為をする者達こそ踏み迷う多神教徒達であることがお分かりになったと思います。たとえイスラームの教義を説きサラ（礼拝）とサウム（断食）とハッジ（巡礼）をし「アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、アシュハド・アンナ・ムハンマダッラッスールッラー（わたしはアッラー以外に崇拜の対象は存在しないことを証言します。わたしはムハンマドはアッラーの使徒であることを証言します）」と唱えても、その人は既に明らかにしたように、このシャハーダ（証言）の意味を十分に理解するまでアッラーの唯一性を信じているものとはみなされないのです。非ムスリムに関していえば、シャハーダの意味を十分に理解した者がこのシャハーダを唱えてイスラームに入信すれば、ムスリムと呼ばれるのです。このようなムスリムは、無知なる者達のようにシルク（多神教）にとどまったり、あるいはイスラームについて理解したあとでもイスラームの義務行為をなんらかの形で否定したり、あるいはイスラームの教えに反する教えを信ずることがいかにイスラームと矛盾しているかが理解できるほど信仰の厚い人達なのです。預言者や敬虔なムスリム（アウリヤー（1））は自分たちを讃えたりあるいは助けを求められたりする者達からはまったく無縁な存在なのです。アッラーフ・タアーラーはアッラーの唯一性を説くことと預言者あるいはアウリヤー（1）であろうとアッラー以外の崇拜を絶つことを伝えるために使徒を遣わしたことを決して忘れてはいけません。

使徒や使徒を手本としたアウリヤーを愛することはかれらを崇拜することではありません。彼らを崇拜することはかれらの敵としていた所以でもありました。かれらを愛することはかれらを手本としかれらの道程をたどることで崇拜とは無縁な存在なのです。本当のムスリムは預言者やアウリヤーを愛してはいても、決して崇拜はしていません。われわれのラスールへの愛は自分自身や妻や息子やすべての人々以上に義務であることは確かです。

**救出される集団** 使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワサッラム）とサハーバ（教友）がよりどころとしていたのは「ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラーの他に崇拜すべき対象はない）」の意味を信じることに実践することにつきましました。ムスリムはドーア、犠牲、誓い、援助、悪魔退散などの行為もすべてアッラーにのみ捧げなければなりません。六信五柱についても全く同じ事が言えます。アル・クルアーンとスンナこそあらゆる分野における裁定の基準となります。アッラーの敬虔なムスリムを擁護し、アッラーの敵を敵とし、アッラーの道にジハードしなければなりません。ムスリム指導者が正しいことを命じたならば、それに従わなければなりません。またどこにしようと真実をつねに訴えなければなりません。各自の徳に応じて違いはあっても、預言者の妻達やその一族やサハーバ（教友）を等しく敬愛しなければなりません。預言者の妻達やその一族やサハーバの何人かに対する似非信者達の中傷を信じてはいけません。かれらたちが意図したこの中傷はムスリム達の間柄を裂くことにあるからです。残念なことに何人かの学者達や歴史家達はだまされ、その著書の中でこのことを記していますが、これは明らかに間違いです。

預言者の一族と称し「サイイド」と呼ばれる人達はその名前の由来の正しさを確認しなければなりません。家系を偽った者はアッラーに呪われるからです。もしその人が預言者の家系であるということが確かめられたならば、使徒及びその一族を模範として、アッラーの唯一性を信条とした規範を示し反抗的態度をすてなければなりません。自分たちに頭を下げさせたり、足に接吻をさせたり、特別な服を着て他の同胞ムスリムと区別したりしてはなりません。それは使徒の取った規範に違反するからです。使徒ご自身とそのこととはまったく無関係なのです。アッラーのみ許で最も尊厳のある者こそ最もタクワー（畏怖の念）あついで者なのです。我が預言者ムハンマドとその一族に祝福と平安あれ。

アッラーを信じ実践すべき『ラー・イラーハ・イッラッラー』の文言の意味には統治と立法はアッラーのみの権利であって、何人もどんな法令であれ法を制定するに際しては、シャリーア（アッラーの法）に違反して法を定めることは許されておられません。またいかなるムスリムでもアッラーが啓示されたアル・クルアーン以外の法をもって国を治めたり、シャリーアに違反して統治することはできません。アッラーがハラーム（非合法）としたものをハラール（合法）としたり、あるいはその逆にハラールとしたものをハラームとするのも何人にも許されていません。あえて違反と知っていてこれに違反したものはアッラーにたいする背信行為なのです。アッラーは次のようにおっしゃっています。

﴿لَمَّا نَزَّلَتْ تَوْرَاةَ فِيهِ هُدًى جُورٌ يَحْكُمُ النَّبِيُّونَ الَّذِينَ أَلْمَزُوا لِلَّذِينَ هَادُوا وَالْبَيْتَانَ وَالْأَحْبَارَ  
بِمَا اسْتَخْلَفُوا مِنْ كِتَابِ اللَّهِ وَأَنبَأُوا عَلَيْهِمْ أَشْيَاءَ فَلَا تَخْشَوْنَ وَالْمَلِئَاءَ الَّذِينَ خَشَوْا رَبَّهُمْ كَلِمَةً نَسْتَرُ وَوَيْبَاتٍ تُحْمِلُهُنَّ  
قَلِيلًا وَمَنْ لَمْ يُجِبْكُمْ مَا أَنْزَلَ اللَّهُ فَأُولَئِكَ هُمُ الْكَافِرُونَ﴾

アッラーが啓示された [法] をもって統治しない者こそカーフィル（背信の徒）である。  
(Q 5/44)

アッラーが遣わされた使徒達の職務は『ラー・イラーハ・イッラッラー』という文言で言い表されているアッラーの唯一性を示す言葉を人々に呼びかけ、この言葉のもつ意味を実践することにあつたのです。アッラーのみを崇拝し被造物崇拝から脱却することです。すなわち、シャリーアとは人為的利害を基盤とした実定法とは無縁で、創造主アッラーの意志を基盤とした時空を超えた法のことです。

アル・クルアーンを盲目的な習慣から遠ざかって熟考し読んだ者には誰でも、アル・クルアーンは著者が既に明らかにしてきたハック（真理）であり、人間とアッラーフ・スブハナッラー（1）との関係、そして人間と人間との関係が定められていることがお分かりになったことと思います。アッラーはアッラーと信徒との関係をすべてのイバーダート（行）を通してアッラーを崇拝するようにと定められました。アッラー以外のいかなる崇拝も受け入れられないからです。アッラーは預言者達及び敬虔なアッラーの僕達とアッラーとの関係をアッラーへの愛につづくかれらへの愛と規範とされたのです。また、アッラーはアッラーと不信仰者であるアッラーの敵との関係を怒りの関係にされました。なぜならアッラーは彼らをお怒りになっているからです。しかしそうであってもアッラーはつねにかれらをイスラームへ招請し、おそらくかれらが導かれるであろうと願って、かれらにイスラームを説いているのです。もしかれらがイスラームを受け入れなければ、シルク（多神崇拝）がなくなり、ディーン（教え）がすべてアッラーに属しアッラーの統治に服すまでムスリムはかれらと戦わなければなりません。すなわち、タウヒードの文言『ラー・イラーハ・イッラッラー』のもっている意味をムスリム達が充分理解しなければなりません。また真のムスリムとなるにはこれに基づいて実践しなければなりません。

『ムハンマドはアッラーの使徒である（ムハンマドッラズールッラー）』というシャハーダ（証言）の意味はムハンマドは全人類にアッラーの遣わされた使徒であるということと、崇拝の対象とならず、一人のアッラーの僕として、また生涯一度も偽ったこともなく、服従され従われるべき対象であります。使徒に服従した者はジャンナ（楽園）に入れられると約束されています。使徒に反抗した者はナール（業火）に入れられるのだということを知り信じなければなりません。アッラーがお命じになったイバーダート（宗教的行為）である宗教儀礼にしても、あるいはすべての分野にわたる国家の政体や立法にしても、ハラール（合法）あるいはハラーム（非合法）に立脚した立法を制定するにはこのムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）によらなければなりません。なぜならばかれはアッラーからのシャリーア（法）を伝える使徒であるからです。ムスリムは使徒（ラズールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）以外によって得られた立法は受け入れることは出来ないのです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃって

います。

(هُنَّ أَفَاعِلُهُ عَلَى رَسُولِهِ مِنْ أَهْلِ قُرَيْشٍ فَلَمَّا لَمَسُوا لَوْلَى رَسُولِ وَوَلِي الْقُبُورِ لِيَأْتُوا إِلَيْهِمْ سَاكِنِينَ وَأَبْنِ  
لِلدَّبْلِجِ كَيْ لَا يَكُونُوا وَيَلْتَقِ الْأَغْنِيَاءُ مِنْكُمْ وَتَتَلَاكُمْ الرُّؤْيَى فَخُذُوا مِنْهَا مَا كُمْ عَنْفُوتَهُمْ  
وَأَتَقُوا اللَّهَ إِنَّمَا شَدِيدُ الْعِقَابِ))

ラスール（使徒）によってもたらされた [法] を受け入れなさい。あなたがたに禁止されたことはさげなさい。(Q 5 9/7)

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにもおっしゃっています。

فَلَا (وَرَبِّلِيُؤَلِّمُونَ حَمِي كِحَقِيمًا شَجَرَ بَيْنَهُمْ تَلَمَّ يَجِدُوا فِي نَفْسِهِمْ حَرًا جَمًّا قَضَيْتَ  
يُسَلِّمُوا تَسْلِيمًا))

[啓示を信仰していると主張しているが実際は (1) ] そうではない。あなたのラッブ (主) にかけて、かれらは自分たちの間で起きた [紛争] に関してあなたに裁定を仰ぎ、その後あなたが下した裁定に、かれら自身が満足し本当に納得するまでは、かれらは信じていないのだ。(Q 4/6 5)

アーヤの意味 最初のアーヤでアッラーはその使徒ムハンマド（アライヒッサラーム）に命じられたことはすべてムスリムが従うよう命じられています。もうひとつのアーヤはアッラーフ・スブハーナご自身がご自身に誓約されているアーヤです。アッラーは両者の間で起きた紛争に関して使徒に裁定を仰ぐことはアッラーと使徒を信仰することにほかならないと説いているのです。しかも、それは正しい行為であるとアッラーご自身誓約されています。これに関して次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : ((من عمل عملا ليس عليه أمرنا فهو رد))

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラーム）はおっしゃいました。『われらの命に背く行ないをする者は受け入れられない。』（ムスリム）

呼びかけ 頭脳明晰な読者よ『ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドッラズールッラー（アッラー以外に崇拝の対象は存在せず、ムハンマドはアッラーの使徒である）』の意味を知ったならばこのシャハーダ（証言）こそイスラームを知るカギでイスラームを支えている礎であることがお分かりになったことと思います。アッラーに向かって誠実に心から「アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、アシュハド・アンナ・ムハンマダッラズールッラー（わたしはアッラー以外に崇拝の対象は存在しないことを証言します。わたしはムハンマドはアッラーの使徒であることを証言します）」と唱えてみてごらんなさ

い。ドゥンヤー（現世）とアーヒラ（来世）における幸福を得るために、また死後アッラーの懲罰（アザーブ）から逃れるためにもこのシャハーダの意味を理解して実践することが重要です。

『ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドゥラッスールッラー』のシャハーダに基づいて、残りのイスラームの柱を実践しなければなりません。アッラーフ・タアーラーのために正しく誠実にこれらの行（ぎょう）を果たすことによってアッラーを崇拝することにつながることから、アッラーはムスリムにこれらの五柱を課したのです。イスラーム法で定められた弁解以外にこれらの五柱のひとつでも怠った者は『ラー・イラーハ・イッラッラー』の意味をほごにしたも同様、その人のシャハーダは正しいとは見なされません。

## [2] 第2の柱：サラ（礼拝）

**サラの意義** 頭脳明晰な読者よ、イスラームの第2の柱はサラです。昼間と夜間とに行われる1日5回のサラはアッラーとムスリムとの関係をつなぐためにアッラーフ・タアーラーが定められたものです。サラを通してムスリムはアッラーに助けを求め祈ります。サラを定められたのはまたサラを通して忌まわしい行為や禁じられた行為を絶つためです。その結果、精神的肉体的安らぎからドゥンヤー（現世）とアーヒラ（来世）における幸福を得ることができるのです。

ムスリムはサラのために、身体や衣服やサラをする場所を清浄（1）に保っておかなければなりません。アッラーがムスリムに定められた方法でムスリムは、物質的汚れから身体を清浄にするためにまた精神的汚れから心を清浄にするために、きれいな水で陰部を含めた一定の体の部位の汚れを落とさなければなりません。

サラはディーン（教え）の柱でふたつのシャハーダ（2）に続いて最も重要な柱です。ムスリムは成人になったときから死ぬまでサラを守らなければなりません。サラに慣れるよう家族は子供達に7歳になったらサラを命じなければなりません。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

إِذَا قَعَبْتُمْ الصَّلَاةَ فَاذْكُرُوا لِلَّهِ قِيَمًا قَوْمًا قَوْمًا وَعَلَّجْتُ نُبُوبَكُمْ فَبِأَنظُمْتُمْ فَأَقِيمُوا لِلصَّلَاةِ إِن  
ظَقَلَا كَانَتْ عَلَيُّ مُمِينِينَ كَبِيرًا مَّقْوُوتًا

サラ（礼拝）は時刻が既に信徒らに定めてある（Q 4/103）

(وَمَا أُمِرُوا إِلَّا لِيَعْبُدُوا اللَّهَ مُخْلِصِينَ لَهُ دِينَهُمْ وَمَا كَانُوا لَهُمْ جُنُودًا مُوقِفِينَ وَأُولَئِكَ هُمُ الَّذِينَ كَرِهُوا أَنْ يُذَكَرُوا وَلَئِنْ كُنْتُمْ تُحِبُّونَ اللَّهَ فَاتَّبِعُونِي يُحْبِبْكُمُ اللَّهُ وَيَغْفِرْ لَكُمْ ذُنُوبَكُمْ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَحِيمٌ) (سورة آل عمران: ١٠٣)

かれらが命じられたことは、ハニーフ（純正な教えの徒）として、アッラーの教えを誠実に〔遵守し〕アッラーを崇拜し、サラ（礼拝）を挙行し、ザカー（浄財）を供出するだけだ。これこそディーヌ・ル・カイマ（真正の教え）である。（Q 9 8/5）

**アーヤの意味** アッラーフ・タアラーは最初のアーヤではサラは信徒にとってはファルド（義務）であるということと、定められた時間内に行われなければならないということが述べられています。第2のアーヤではアッラーフ・アッザ・ワ・ジャッラ（1）が人々に命じかつ人々を創造なされた所以とはアッラーだけを崇拜しイバーダ（行）を誠実に守ることで、それはサラを挙行しまたザカーを権利者に供出することで述べられています。

恐怖や病気の場合ですらすべての場合にわたってサラを行うことはムスリムにとって義務なのです。立ってあるいは座ってまたは寝て各自できる範囲でサラをあげればよいのです。それでも出来ない場合は目あるいは心でサラの仕種（しぐさ）で表現するだけでもよいのです。使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はサラを怠る者は男性であろうと女性であろうとムスリムではないとあって、次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( العهد الذي بيننا وبينهم الصلاة فمن تركها فقد كفر ))

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃいました。『われわれと彼らとの間の約束はサラである。これを怠った者は背信の徒である。』（サヒーフ（1））

1日5回のサラ サラート・ル・ファジュル（夜明けの礼拝）、サラートツズフル（昼の礼拝）、サラート・ル・アスル（午後の礼拝）、サラート・ル・マグリブ（夕方の礼拝）、サラート・ル・イシャー（夜の礼拝）の1日5回義務のサラがあります（2）。

ファジュルの時刻は東方の空に朝の光がさし始まる時刻で、日の出をもってファジュルの時間帯は終わります。ぎりぎりまで延ばすことは許されていません。ズフルの時刻は太陽が中天を過ぎた時に始まり物のかげが物と同じになった時をもって終わります。アスルの時刻はズフルの時間帯が終わったときを始まりとし、物の影が倍になるまでで、ぎりぎりまで延ばすことは出来ません。太陽が白く見える限りサラをすることができます。マグリブは日没と同時に始まり、とっぷり日が沈むまでです。ぎりぎりまで延ばすことはできません。イシャーの時刻はマグリブの時間帯が終わった直後に始まり夜の最後までです。それ以後にならないようにしなければなりません。

もし、サラアの時刻を意志に反してなんの法的理由なくして逃してしまったとしたら、それは大変罪深く、アッラーにタウバ（改悛）の意を示し、再び繰り返さないようにすることが非常に重要です。アッラーフ・タアラーは次のようにおっしゃっています。

يُرْوَى كَلِمَةً مُصَلِّينَ 4 نَدَائِينَ هُمْ مِنْ عَمَلَاتِهِمْ بَلَّغُونَ ((

かようにサラア（礼拝）をする者達に災いあれ。＊うっかりしてサラアに遅れたり逃したりする礼拝者にこそ [災いあれ]。 (Q 107/4-5)

**サラアの規定** サラアを正しくあげるのには下記に述べる規定（アフカーム）に従ってサラアをあげなければなりません。

### (a) タハーラ（清浄）

サラアに入る前に身心ともに清浄でなければなりません。まず、陰部をきれいにすることから始めます。これが終わったならば、下記に示すようにウドゥー（沐浴）をしなければなりません。

**ウドゥー（沐浴）** 下記にその方法を箇条書きにしておいたので実際にやってみましょう（1）。

(i) タハーラをするということを心のなかでその意志（ニーヤ）を立てます。決して口で唱えることではありません。なぜならアッラーはそのことについてよく知っていらっしゃるからです。使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）は口に出して唱えることはなされませんでした。

(ii) 《ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム（慈悲あまねき慈悲深きアッラーのみ名において）》と1回唱えます。

(iii) 両手で指の間も含めて手を手首までよくこすって3回洗います。

(iv) 右手で水を受けて口を3回ゆすぎます（2）。

(v) 右手で水を受けて鼻に水を鼻孔まで通し詰まっていたほこりなどを洗い流し出します。これを3回繰り返します。

(vi) 両手で顔のすべてを3回洗います。

(vii) 両腕を肘まで3回洗いますが、始めるときは右腕から左手をつかって洗い始めます。

(viii) 両手で前頭部から後頭部まで頭の全域をなで、次に後頭部から前頭部まで1回なでます。

(ix) 頭をなでたその両手で両耳の内側と外側を1回撫でます。

(x) 最後に、踝（くるぶし）を含めた両足を指の間も含め3回洗います。やはり、右足から始めます。

タハーラの後大小あるいはガスがでた場合や寝てしまったりあるいは失神してしまった場合は、サラアをするのであればウドゥアをやり直さなければなりません。

**グスル（全身沐浴）** 夢精あるいは性交によって精液が出たようなジュヌブ（大不浄）の状態の場合は、男女に関わらずグスル（全身沐浴）をして不浄を洗い清めなければなりません。女性は月経（ハイド）や分娩（ニファース）すなわち出産が終わったならば、身体全体をグスルして身を浄めなければなりません。このような状態の場合女性はサラアをしてはならないからです。タハーラになるまで女性はサラアをする義務がないからです。月経や出産のあった日の過去のサラアはアッラーは軽減して免除して下さっているのです。男性同様その他のイバーダート（行）においては、月経や出産の状態であっても免除はされません。

**タヤンムム** 水がなかったり病気、あるいは旅行中に水を使用することが出来ないような場合はタヤンムムと呼ばれる簡易沐浴があります。

(i) まず、心の中でタハーラ（清浄）をすることの意志（ニーヤ）を立てます。

(ii) 次にアッラーのみ名を唱えます。

(iii) きれいな乾いた土の上を両手で手のひらを下にして1回触れます。

(iv) その両手で顔を撫でます。

(v) 同様に右手の手の平で左手の甲を撫でます。

これをもってタハーラを終えることができます。

月経や出産後にある者や大不浄の状態にある者でも、水がなかったり水の使用をさげたいときにタヤンムムを行います。

## (b) サラーの方法

ファジュル (1) ファジュルは男性女性に関わらず2 ラクア (2) のサラーをあげます。ここでファジュルを例にとってサラーの方法について述べたいと思います。これは他のサラーの基本となります。

(i) まずキブラ (3) 即ちマッカのカーバ神殿の方角に向かって立ちます。この立った姿勢をキヤームと呼びます。また、マッカの方向に向くことをイスティクバール・ル・キブラ単にイスティクバールと呼びます。

(ii) 心の中でサラーのニーヤ (意志) を立てます。決して口に出してはなりません。

(iii) 両手を両肩上まであげ次の言葉 (ズィクル) を唱えます。

الله أكبر
アッラーフ・アクバル (1)
アッラーは偉大なり。

「アッラーフ・アクバル」と唱え終わったら手を降ろします。このとき手は右手を左手の上に重ねて胸とへその間におきます。これをタクビーラト・リフティターフ (サラー開始のタクビーラ) 単にタクビーラと呼んでいます。このタクビーラはタクビーラト・ル・イフラーームとも呼ばれ、このタクビーラをもってサラーに入ったことを示しサラー以外の動作をしないことを意味します。次に下記のドアーを声を出さずに唱えます。

سبحانك اللهم و بحمدك و تبارك اسمك و تعالیٰ جددك و لا إله غيرك

スプハーナカッラフンマ ワ・ビハムディク、 ワ・タバールカスムク、ワ・タアーラー  
ジャッドウク、 ワ・ラー・イラーハ・ガイルク

アッラーに栄光あれ。アッラーよ。あなたを讃えん。あなたのみ名に祝福あれ。あなたの威厳が高められよ。あなた以外にイラー（崇拜の対象）は存在せず。

(iv) 次に、『スーラト・ル・ファーティハ（開扉章）（2）』を唱えますが、その前に下記の言葉を声を出さずに唱えます。

أعوذ بالله من الشيطان الرجيم

アウーズ ビッラーヒ ミナッシャイターニッラジーム

わたしはアッラーに呪われたシャイターン（悪魔）からのご加護を求めます。

次に下記の『スーラトウ・ル・ファーティハ』を唱えますが、必ず唱えなければサラーは無効になります（1）。また、可能な限りアラビア語で読まなければなりません（2）。ファジュルのサラーの場合は声を出して読みます。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ الْكَرِيمِ مَلِكِ يَوْمِ الدِّينِ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا اسْتَعِينُوا بِذِكْرِ اللَّهِ عَسَىٰ أَنْ يَكُونَ اللَّهُمُّ لَكُمْ فَاكِهًا  
لَهُ نَصْرًا وَاللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ﴿٧﴾

(1) ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム

(2) アル・ハムドゥ リッラーヒ ラッビ・ル・アーラミーン

(3) アッラフマーニッラヒーム

(4) マーリキ ヤウミッディーン

(5) イーヤーカ ナーブドゥ ワ・イーヤーカ ナスタイーン

(6) イフディナッスイラータ・ル・ムスタキーム

(7) スイラータッラズィーナ アンアムタ アライヒム ガイリ・ル・マグドゥービ

## アライヒム ワ・ラッダーツリーン (1)

(1) 慈悲あまねき慈悲深きアッラーのみ名において。(2) 万有の主アッラーに讃えあれ。(3) 慈悲あまねき慈悲深きお方。(4) 最後の審判の日の主宰者。(5) われらはあなただけを崇拜し、あなたにのみ助けを求めます。(6) われらを正しい道に導きたまえ。(7) 怒りをかけた者たちでもなく、踏み迷った者たちでもない、あなたが恵み与えた者たちの道。

(v) アル・クルアーンの中から短めのスーラか数アーヤを唱えます。

(vi) 「アッラーフ・アクバル」と唱えて腰をまげます。このとき頭と背が地面と平行な状態になるまでかがめます。この姿勢をルクーといいます。このとき両手の内は膝にしっかりと当てたまま下記の言葉を声を出さずに3回唱えます。

سبحان ربي العظيم
スブハーナ・ラッビヤ・ル・アズィーム
偉大なる我が主を賛美す。

(vii) 下記の言葉をいいながら頭をあげ、もとのキヤーム (立礼) の姿勢に戻ります。

سمع الله لمن حمده
サミアッラーフ・リマン・ハミダ
アッラーは讃えた者を聞いたもう。

このとき立って下記の言葉を唱えます。

ربنا و لك الحمد
ラッバナー・ワ・ラカ・ル・ハムドゥ

我らの主よ、あなたにこそ讃えあれ。

(viii) 次に「アッラーフ・アクバル」といって地面にサジュダ（平伏）します。このとき両足の指先と両膝と両手そして額と鼻が地面についていなければなりません。そして平伏したまま、下記の言葉を声を出さずに3回唱えます。

سبحان ربي الأعلى

スブハーナ・ラッビヤ・ル・アーラー

至高なる我が主を賛美す。

(ix) そして次に「アッラーフ・アクバル」と唱えて座わります。座ったまま、下記の言葉を声を出さずに唱えます。

رب اغفر لي

ラッビグ・フィル・リー

我が主よ、わたしを赦したまえ。

(x) そして「アッラーフ・アクバル」と唱えてもう一度サジュダして「スブハーナ・ラッビヤ・ル・アーラー（至高なる我が主を賛美す）」と3回唱えます。

これで最初のラクアが終わりますが、2回目のラクアにはいる場合、「アッラーフ・アクバル」と唱えながらもとのキヤームの姿勢に戻り2回目のラクアに入ります。2回目のラクアに入ったならば、『スーラトゥ・ル・ファーティハ』を唱え、最初のラクアと同じ動作を続けます。

(xi) 2回目のラクアが終わったならば、座ったまま次の言葉を唱えます。

التحيات لله و الصلوات و الطيبات السلام عليك أيها النبي و رحمة الله و بركاته السلام علينا و  
على عباد الله الصالحين أشهد أن لا إله إلا الله و أشهد أن محمدا عبده و رسوله

アッタヒーヤート・リッラー、ワッサラワート・ワッタィイバート、アッサラーム・アライカ・アイユハンナビーユ・ワ・ラフマトウッラーヒ・ワ・バラカート、アッサラーム・アライナー・ワ・アラー・イバーディッラーヒッサーリヒーン。アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、ワ・アシュハド・アンナ・ムハンマダン・アブドゥフ・ワ・ラスール。

アッラーにご挨拶いたします。5回の義務礼拝を怠ることなく、アッラーを讃えます。平安あれ、預言者よ、アッラーの慈悲と祝福あれ。われらとアッラーの敬虔なる僕に平安あれ。わたしはアッラー以外に崇拝すべきものがないことを証言いたします。また、ムハンマドはその僕で使徒であることも証言いたします。

اللهم صل على محمد و على آل محمد كما صليت على إبراهيم و على آل إبراهيم و بارك على محمد و على آل محمد كما باركت على إبراهيم و على آل إبراهيم في العالمين إنك حميد مجيد

アッラーフンマ・サッリ・アラー・ムハンマディン・ワ・アラー・アーリ・ムハンマド、カマー・サッリタ・アラー・イブラーヒーマ・ワ・アラー・アーリ・イブラーヒーム。インナカ・ハミードウツマジード（1）。ワ・バーリク・アラー・ムハンマディン・ワ・アラー・アーリ・ムハンマド、カマー・バーラクタ・アラー・イブラーヒーマ・ワ・アラー・アーリ・イブラーヒーム。インナカ・ハミードウツマジード。

おおアッラーよ、ムハンマドとその一族に至福あれ、イブラーヒームとその一族を至福したように。あなたこそ賛美と栄光の〔主〕であられる。また、ムハンマドとその一族に祝福あれ、イブラーヒームとその一族を祝福したように。あなたこそ賛美と栄光の〔主〕であられる。

(xii) 最後に、まず顔を右に向けて「アッサーラーム・アライクム・ワ・ラハマトウッラー」と唱えてから、次に顔を左に向けて「アッサーラーム・アライクム・ワ・ラハマトウッラー」と唱えます。

このようにしてファジュルのサラールを終えます。

その他のサラール ズフル、アスル、イシャーは4ラクアで最初の2ラクアはファジュルのサラールの場合と同じように行ないます。2ラクア目の最後にタシャップドを行ってから「アッラーフ・アクバル」と唱えながらもとのキヤームの姿勢に戻ります。そして最初のラクアと同じようにサラールをさらに2ラクア続けます。最後に座ったままタシャップドをしたあと、預言者への賛辞を付け加えて、ファジュルの場合と同じようにサラームを唱えてサラールを終えます。



を供出しなければなりません。穀物や果実のニサーブは300サーアです。売りに出した不動産はその価格をザカーします。金銀及び商品のザカーの課税税率は毎年2.5%です。農作物は水を得る際、経費を必要としなかった場合10%で、水を得るために経費を必要とした場合は5%のザカーをそれぞれ供出しなければなりません。

農作物のザカー供出時期は収穫のあった際で、年に2回あるいは3回あれば収穫のつど供出しなければなりません。ラクダ、牛、羊に関するザカーの額は法学書を参考にしてください。ザカー供出の義務についてアッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

(وَمَا أُمِرُوا إِلَّا لِيَعْبُدُوا اللَّهَ مُخْلِصِينَ لَهُ دِينَهُمْ مِمَّا دُونِ اللَّهِ كَمَا بَدَأَكُمْ تَعَالَى ۗ وَاللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ۗ وَالَّذِينَ يَدِينُونَ دِينَنَا بِالْهَيْبَةِ وَنُؤَتُوا نُسْرًا وَمَا كَانُوا لَكُمْ دِينَ لِقَائِهِمْ))

かれらが命じられたことは、ハニーフ（純正な教えの徒）として、アッラーの教えを誠実に〔遵守し〕アッラーを崇拜し、サラ（礼拝）を挙行し、ザカー（浄財）を供出するだけだ。これこそディーヌ・ル・カイイマ（真正の教え）である。（Q98/5）

ザカーは貧しい人々の心を和ませ救済を与えるだけではなく、貧しい者と豊かな者たちの間に愛の絆を強化させる役割を演じています。

イスラームの教えはムスリム間の社会的連帯と財政的協力においてザカーに留まらず、アッラーは飢餓のさい富める者に対し貧しい者を扶養することを義務づけています。ムスリムは自分だけが腹を肥やし、隣人が飢餓に苦しんでいることを禁じています。また、ムスリムにはザカート・ル・フィトゥルも課せられています。イード・ル・フィトゥル（断食明けの祭り）の日で（1）に供出しなければなりません。居住地区の住民全員が子供や使用人も含めてその後見人は1サーアの食物を供出しなければなりません。「何かをする」といって宣誓して何もしなかった場合のカッファーラト・ル・ヤミーン（2）（宣誓の購い）に対しては金銭をもって購うことになっています。アッラーはムスリムに対し誓いを守るよう義務づけています。アッラーはムスリムに随意的サダカを供出することを勧めています。アッラーの道のために最高の方法でお金を出す者に最高のジャザー（報い）を約束しています。そしてそのジャザーを、10の善行を700倍へとそしてさらにそれ以上に増やしていただけることを約束されています。

#### [4] 第4の柱：サウム（断食）

ここでいうサウムとはヒジュラ歴第9番目の月であるラマダーン月のサウムを指します。

**サウムの規定** 夜明けまえにスィヤーム（3）をすることをニーヤ（断食の意志を決意）し、日没まで飲食及び性交を中止します。これをイムサークといいます。日没とともにスィヤームを中止します。ラマダーン月1ヶ月間このような生活を続けます。

**ニウマ（恩恵）** スィヤームには数え切れないほどの恩恵があります。最も重要な恩恵を下記に列挙しておきます。

(i) アッラーへのイバーダ（崇拜）と命令に対する規範であります。人間が性欲（シャフワ）および飲食をアッラーのために断つことはアッラーフ・タアーラーに対するタクワー（畏怖の念）の最高の要因でもあります。

(ii) スィヤームの健康的かつ経済的また社会的恩恵には枚挙がありませんが、これらについての恩恵もアキーダ（信条）とイーマーン（信仰）をもってスィヤームをしている者しか理解することはできません

((يأيها الذين آمنوا كتب عليكم الصيام كما كتب على الذين من قبلكم لعلكم تتقون أياما  
معدودات فمن كان منكم مريضا أو على سفر فعدة من أيام أخر و على الذين يطيقونه فدية طعام  
مسكين فمن تطوع خيرا فهو خير له و أن تصوموا خير لكم إن كنتم تعلمون شهر رمضان الذي  
أنزل فيه القرآن هدى للناس و بينات من الهدى و الفرقان فمن شهد منكم الشهر فليصمه و من  
كان مريضا أو على سفر فعدة من أيام أخر يريد الله بكم اليسر و لا يريد بكم العسر و لتكملوا  
العدة و لتكبروا الله على ما هداكم و لعلكم تشكرون))

イーマーン（信仰）に入った者達よ、あなたがたよりも以前に〔既に〕定められていたように、スィヤーム（断食）があなたがたに〔も〕定められた。〔アッラーへの〕タクワー（畏怖の念）を起こさせるであろうと思って。＊限られた日数〔スィヤームが定められた〕。あなたがたの中で病人あるいは旅行中の者は他日イッダ（定められた日数）〔スィヤームをせよ〕。それ〔スィヤーム〕をやり遂げるのに大変骨が折れる者は困窮者へのタアーム（食物）を〔一食分〕フィドゥヤ（償うこと）だ。進んで善行をする者は、自分のためによりいことなのだ。あなたがたがスィヤームをすることは自分にとってよいことだ。もしあなたがたが〔スィヤームの意義について〕知っていたならば。＊〔スィヤームを果たすのは〕ラマダーン月だ（1）。〔この月こそ〕人々のフダー（導き）として、またフダーとフルカーン（分別）のバイイナート（解明）としてアル・クルアーンが啓示された月である。あなたがたの中でこの月に出会ったならば、スィヤームをせよ。病気あるいは旅行中の者は他日イッダ（定められた日数）〔スィヤームをせよ〕。アッラーはあなたがたにユスル（楽）を望み、〔決して〕あなたがたにウスル（困難）を望んでいない。イッダをやり遂げなさい。そして、あなたがたを導くものに対して「アッラーフ・アクバル（アッラーは偉大なり）」と唱えなさい。恐らくあなたがたがシュクル（感謝）〔の念〕

を抱くだろうと思って。(Q 2/1 8 3-1 8 5)

**その他の規定** アッラーフ・タアーラーがアル・クルアーンの中で明らかにされたスィヤームの規定にはいくつかがあります。これらの規定は使徒ムハンマド（アライヒッサラート・ワッサラーム）がそのハディースの中で明らかにされています。

(i) 病人と旅行者はスィヤームを破ってもかまいませんが、必ずラマダーン月が過ぎてから後日破った日数分だけスィヤームを行なわれなければなりません。

(ii) 月経（ハイド）や出産（ニファース）の場合はスィヤームをすることは正しくありません。その期間中スィヤームをせず飲食をとります。後日この期間中の日数分スィヤームをします。

(iii) 同様に妊婦や乳母も生命に危険を感じたときや子供の生命に不安を感じたならばスィヤームを破り後日その日数分だけスィヤームをします。

もし断食中うっかりして飲食をとり、いまスィヤームの期間中であるということを思い出したならば、そのスィヤームは正しく、口の中にあるものを吐き出して、その日のスィヤームを続ければよいのです。なぜならば、忘れてたり誤ったりしたことはアッラーはムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラーム）のウンマ（共同体）にはお許しになったからです。

## [5] 第5の柱：ハッジ（1）（巡礼）

**ハッジの意義** ハッジは生涯に一度、それ以上の場合は随意に、アッラーの聖殿（2）をハッジ（巡礼）することで、様々な恩恵が与えられるのです。ハッジに際して下記の点について留意することが大切です。

(i) 精神面においても肉体面においても財政面においてもアッラーフ・タアーラーへの服従を通じてアッラーのみを崇拝すること。

(ii) あらゆる地域からやってきたムスリムの集会が一カ所で同じ衣をまとって、同時にひとつのラップ（主）の崇拝を通して、地位の上下の区別や貧富の差や皮膚の色を超えた一大祭典として行われること。

全人類はアッラーの被造物でアッラーを崇拝するために創造されたアッラーの僕です。こ

の祭典を通じてムスリム達は互いに知り合い協力することに専念します。また、この日アッラーは最後の審判の日のヒサーブ（清算）のために全人類を例外なく復活（バース）させ集結（ハシュル（1））する日を思い起こさせ、アッラーフ・タアーラーへの服従をもって死後に備えます。

どこにしようと各サラーごとに顔を向けるようアッラーが命じられたムスリムのキブラであるカーバの回りをタワーフ（2）する意図やまた定められたハッジの期間中その他のマッカの聖地であるアラファートでのウクーフ（立礼）やムズダリファ、ミナーでの滞在などこれらの諸儀礼の意図はこれらの聖地でアッラーが命じられた形でアッラーフ・タアーラーを崇拝することにあるのです。

カーバ自体及びかの聖地及び被造物はすべてイバーダ（崇拜）の対象ではなく、益にも害にもならず、イバーダはアッラーにのみ属しているのです。益をもたらすのも害をもたらすのもアッラーによってのみなされるのです。もしハッジをすることをアッラーがご命令されなかったとしたら、ムスリムがハッジを行うことは正当ではなかったはずで、イバーダは単なる個人の見解や空論であるはずがないからです。アル・クルアーンと使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のスナナによって明らかにされ、それはアッラーフ・タアーラーからの絶対的命令です。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

الرُّبُوبِيُّ حَطَّجُ الْبَيْتِ مَنْ اسْتِطَاعَ إِلَيْهِ سَبِيلًا وَمَنْ كَفَرَ فَإِنَّ اللَّهَ يُنْفِئُ عَنِ الْعَالَمِينَ

人々にとってカーバ神殿へのハッジ（巡礼）はアッラーに対する〔義務である（1）〕。経済的肉体的に（2）可能な者にとっては。〔アッラーと使徒とハッジに（3）〕疑義を挟む者がいたとしても、アッラーこそ〔被造物である〕万有からは〔一切何も〕必要としないお方である。（Q 3/97）

ハッジの時期と一緒にであろうとあるいはそれ以外の時であろうとウムラも生涯に一度ムスリムにとって果たすべきファルド（義務）（4）ですが、アル・マディーナにある預言者（アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のマスジドの訪問はハッジと一緒になければならないという義務はありませんし、生涯に一度訪問しなければならないという義務もありません。ただすれば好ましいというだけです。アル・マディーナのマスジドを訪問した者に報償があるというだけです。また訪問しなかったとって罰せられるということはありません。「ハッジをして私を訪ねなかった者はわたしを無作法にあしらったことになるのだ」というこのハディースは正しくありません。使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に対し偽ったハディースです。

アル・マディーナへの訪問を志したムスリムは誰でも Masjid-un-Nabi (預言者のモスク) 訪問を意図したことになります。到着したならば、まずサラ (5) をあげてから、預言者 (アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) の墓の訪問を行います。このとき「アッサラーム・アライカ・ヤー・ラスーラッラー (使徒様、あなた様に平安があられますように)」とご挨拶をすることです。このとき注意しなければならないことは礼をつくし声静かに唱えることです。唱え終わったならばご自身がご自身のウンマに命じられたように、またサハーバ (教友達) (リドワーヌッラーヒ・アライヒム (1)) もそうされたように、何も求めずにご挨拶だけをして去るのです。

サラの場合の時と同じようにうやうやしく墓前に立って預言者 (アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) に願い事を願ったり助けを求めたりあるいはアッラーのみ許にあって彼に仲介を求めたりすることは決してしてはなりません。こういうことをする人達はアッラーフ・タアーラーと並べて他のものを崇拜するムシュリク (多神教徒) です。預言者には罪はなく、預言者はシルク (多神崇拜) とは無縁な方です。預言者 (アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) にたいしあるいは他の人達に対してもこのようなことをしないようにアッラーはすべてのムスリムに警告していらっしやいます。このあと、ふたりの教友 (アブー・バクルとウマル) (ラディヤッラーフ・アンフマー (2)) の墓を訪れます。次に殉教者が埋葬されているバキーウ (3) の墓を訪れます。ムスリムの墓を訪れる際のマナーは訪問者は死者に平安を祈りアッラーに祈願しそれぞれ死後を思い浮かべて去るだけのことです。

ハッジとウムラをするさいに重要なことはそれに必要な経費がハラール (合法的) なものでなければならないことです。ムスリムはハラーム (非合法的) な収入は遠ざけなければなりません。ハラームな方法で得た収入でハッジをした場合そのハッジとドーアは受け入れてもらえないからです。次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( كل لحم نبت من سحت فالنار أولى به ))

使徒 (ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) はおっしゃいました。『非合法なものから育った肉体のもち主はすべて、ナール (業火) に陥れられる運命なのだ。』

また、誠実で信仰心のあつい人を伴侶として選択することも非常に重要です。

**ミーカート (集合場所)** ミーカートに達したならば車等の中でもイフラームに着替えます。飛行機の中であってもミーカートに近づいたならば到着するまえにイフラームに着替えます (1)。預言者 (アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) がイフラームに着替えるよう命じられたミーカートは下記の5カ所です。

(i) アル・マディーナからの住民はズル・フライファ（アブヤール・アリー）です。

(ii) シリア、エジプト、マグリブからの住民はアル・ジュフファ（ラービグの近く）です。

(iii) ナジドやアッターイフ及びこの地の方面からの住民はカルヌ・ル・マナーズィル（アッサイル又はワーディー・マフラム）です。

(iv) イラクからの住民はザート・イルクです。

(v) イエーメンからの住民はヤラムラムです。

上記以外の者がこれらのミーカートを通過する場合これらの地がその人のイフラームを着替えるミーカートになります。また、マッカの住民などミーカートを持たない人たちは各自の家でイフラームに着替えます。

**イフラームの方法** 巡礼者はイフラームに着替える前にまず体全体をきれいに洗い特に局部の汚れを落としタハーラ（清浄）にします。洗ったあと香水などを体に振りかけることが好ましいとされています。そして、ミーカートで2枚の白い布でできたイフラームに着替えます。飛行機を利用する者は自国でイフラームに着替えます。そしてハッジのニーヤを行います。ミーカートに近づいたならば下記のハディースにあるタルビヤを唱えます。

ليك اللهم ليك ليك لا شريك لك ليك إن الحمد و النعمة لك و الملك لا شريك لك ( 1 )

ラッバイカッラーフンマ・ラッバイク、ラッバイカ・ラー・シャリーカ・ラカ・ラッバイク、インナ・ル・ハムダ・ワンニウマタ・ラカ・ワ・ル・ムルク、ラー・シャリーカ・ラク。

あなたに仕えます。アッラーよ、あなたに仕えます。あなたに仕えます。あなたには同伴者は一切存在しません。あなたに仕えます。賛美と恩寵と主権はあなたにのみ属します。

あなたには同伴者は一切存在しません。

(アル・ブハーリー)

男性のイフラームは糸で縫い合わせていない2枚の白い布をまといますが、1枚は上半身にまとい、もう1枚は腰に巻きます。頭にはなにもかぶりません。女性の場合イフラームに際しての特別な着衣はありません。いかなる場合においても、人の目を引き付けたり、誘惑を助長させるような衣服はつつしんで、体がすっぽりかぶさるような少し大きめの衣服をいつも着衣していなければなりません。また、もしイフラームに入ったあと、顔と両手は糸で縫い合わせたもので、たとえばブルカ（ヴェール）や手袋などのようなもので覆ってはなりません。もし男性が顔をのぞいたならば、ウムハート・ル・ムウミニーン（信徒の母達）や使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のサハーバ（教友達）の妻がされたように頭にかぶっているヒマール（頭巾）の端で顔を覆うのです。

**ウムラ（2）とハッジ** イフラームの着衣が終わったら心の中でウムラを行うことのニーヤ（意志）を立て「アッラーフンマ・ラッバイカ・ウムラ（アッラーよ。あなたに仕えます。ウムラにさいして）」と言ってからタルビヤを唱えます。ウムラをまず済ませてから次にハッジ（1）をおこなうことをタマツトウ（2）と言います。このタマツトウが一番よいとされています。使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はタマツトウをやるようサハーバ（教友）に命じられこれをするを義務づけました。御命令を実行していないで躊躇（ちゅうちょ）していることをお怒りになりました。但し、ハドゥユ（犠牲）を持っていた場合は使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）がされたようにキラーン（3）とされました。キラーンはタルビヤを唱えるさい「アッラーフンマ・ラッバイカ・ウムラタン・ワ・ハッジヤー（アッラーよ。あなたに仕えます。ウムラとハッジにさいし）」と言ってからタルビヤを唱えることです。イード・ル・アドゥハー（犠牲祭）にハドゥユ（犠牲）を屠畜するまでイフラームを解除することはできません。イフラード（4）というのはハッジだけを行うことの意志を立てるだけです。「アッラーフンマ・ラッバイカ・ハッジヤー（アッラーよ。あなたに仕えます。ハッジにさいし）」とだけ唱えます。

**ムフリム（1）がしてはならないこと** イフラームのニーヤを立てたならば下記に掲げておいたことはしてはなりません。

(i) 性的関係をもってはなりません。接吻や性欲（シャフワ）を誘発するような行為はしてはなりません。またこれに関する話をしてもなりません。婚約や結婚を取り交わしてもなりません。ムフリムは結婚してもならないし、させてもいけません。

(ii) 毛をかったり抜いたりしてはなりません。

(iii) つめを切ることもいけません。

(iv) 頭になにかかぶせたり当てたりしてはなりません。傘やテントや車のなかに日陰を求めるとは構いません。

(v) 香水をつけたりそのにおいを嗅いだりしてはいけません。

(vi) 狩りをしてはなりません。

(vii) 男性は縫い目のあるものを着たりまとったりしてはなりません。また、女性は顔や両手に縫い目のあるものを当てたりしてはいけません。男性は靴をはいてはなりません、サンダルをはきます。

これらのことを知らずにあるいは忘れてしたとしてもどうということはありません。

**ウムラの方法** 巡礼者がカーバ神殿に着いたならば、まずタワーフ・ル・クドゥーム（2）を行います。それは黒石のところを出発点としてそこから時計とは反対まわりに7周する儀礼です。これがウムラのタワーフです。タワーフには決まったドアがあるわけではありませので、アッラーを念じ覚えているドアを唱えます。タワーフが終わったらもしできればマカーム・イブラーヒーム（イブラーヒームの立ち所）で2ラクアのサラをあげます。もしそこで出来なかったならば、ハラムのどこでもよいですから、2ラクアのサラ（礼拝）をあげます。サイー（1）はサファーの丘からはじめますが、このとき丘に登ってキブラの方角に顔を向け「アッラーフ・アクバル（アッラーは偉大なり）」と唱えます。次に「ラー・イラーハ・イッラーラー（アッラーの他に崇拝の対象はいない）」と唱えてから、ドアをあげます。そして、マルワまで歩いていきます。マルワについたならば、マルワの丘に登ってキブラの方角に顔を向け「アッラーフ・アクバル」と唱えてから、アッラーを祈念しドアをあげます。サファーからマルワまでを1回とし、従ってマルワからサファーへ戻れば2回行ったこととなります。このようにして7回行います。最後はマルワで終わります。これを終えると頭の髪をカットします。女性は指先ほどの髪の毛の一部カットします。これでタマツトウのウムラが終わります。これでハッジまでイフラームを解除することができ、イフラームによって禁止されていたことがすべて解除されます。

**女性の場合** もし女性がイフラームの前にあるいは後で月経（ハイド）または出産した場合はキラーンとなります。他の巡礼者同様に「アッラーフンマ・ラッバイカ・ウムラタン・ワ・ハッジャー（アッラーよ。あなたに仕えます。ウムラとハッジに際し）」という意味のニーヤ（意志）を心の中で立てます。その後タルビヤを唱えます。月経や分娩（ニファー

ス) はイフラームを禁じたり、アラファに立つことを禁じたりすることはありません。ただ、タワーフだけが禁じられているだけです。タワーフを除いてあとはすべて他の巡礼者が行うことを行います。タワーフについてはタハーラとなるまで遅らせることができます。巡礼者がイフラームに入らずミナーに向かう前にタハーラになったならば、グスル（全身清浄）をしてから、タワーフとサイーを行い髪の一部をカットしウムラのイフラームを解除します。巡礼者達がズル・ヒッジャ月（2）8日にイフラームをしたならばかれらと一緒にイフラームを行います。タハーラになる前に巡礼者達がイフラームに入ったならばキラーンを行います。他の巡礼者と同様にイフラームの状態でタルビヤを唱えてミナーへいき、アラファに立ち、ムズダリファへいき、イード・ル・アドハーに投石や犠牲及び散髪などの諸儀礼を滞りなくすべて終わらせることができます。そしてタハーラになったならばグスルをしタワーフ・ル・イファーダとサイーをおこないます。

ウム・ル・ムウミニーン（信徒の母）であるアーイシャ（ラディヤッラーフ・アンハー）がなされたようにハッジとウムラはこの〔1回の〕タワーフとサイーで充分です。また預言者（アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）が他の巡礼者とともにタワーフ・ル・イファーダとサイーをしたので、タワーフとサイーでハッジとウムラは充分であるとおっしゃっています。ウムラとハッジを行うキラーンは使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の言行に基づいてタワーフ（1）もサイーも1回しか課せられていないイフラードと同じです。これは『ヤウム・ル・キヤーマまでウムラはハッジの中に入っている』というハディースにもとづいています。アッラーこそ誰よりも御存じのお方なのです。

**ハッジの方法** マッカの住民はズル・ヒッジャ月（2）8日他の巡礼者がそれぞれの場所でイフラームをしたように、各自の家でハッジのイフラームに着替えます。まず、体を清め2枚のイフラームの衣に着替えます。男女ともハッジのニーヤ（意志）を立てます。「アッラーフンマ・ラッバイカ・ハッジヤー」と言ってからタルビヤを唱えます。イードの日にムズダリファからミナーに戻って、ジャムラトゥ・ル・アカバで投石をし男子は剃髪し女性は髪の一部をカットするまで、前述した注意を充分に守ることが重要です。

巡礼者がズル・ヒッジャ月8日にイフラームをした場合は、他の巡礼者と一緒にミナー（3）へ行って1泊し、まとめてではなく時間ごとにすべてのサラーを短縮礼拝としその都度サラーをあげます。アラファの日（1）太陽が昇ったら他の巡礼者とともにナミラ（2）へ行ってサラーの時刻までそこで着座して過ごします。あるいはナミラの場所に限らずとにかく着座した場所（3）でイマームとともにズフルとアスルの2つのサラーを一度に短縮して集団でサラーをあげます。そのあとアラファへ行きます。ミナーから直接ア

ラファへ行って着座しても構いません。着座した場所がすべてアラファなのです。

アラファでは山（4）に向かうのではなくキブラに向かってアッラーフ・タアーラーのズィクル（祈念）をはじめドアー（祈願）や赦しを乞う多くのドアーをあげます。山はただアラファの一部であって崇拜の対象として山に登ることは禁止されています。その石に触れることも禁止されています。それは禁止されているビドア（5）なのです。

日没まで巡礼者はアラファに留まっていなければなりません。日没後巡礼者達はムズダリファ（6）へ向かいます。ムズダリファに着いたならばマグリブとイシャーの2つのサラを一度にイシャーの時刻に集団であげます。この場合イシャーは短縮して2ラクアのサラをあげます。そして夜をそこで明かし、夜が明けたらファジュルのサラを行いズィクルをします。日の出前にミナーへ向かいます。ミナーに着いたならば、拾い集めた大きくもなければ小さくもないひよこ豆ほどの大きさの小石を7つもって、ジャムラト・ル・アカバでの投石に臨みます。サンダルなどを投げたりしてはなりません。これはシャイターンからでたふまじめな行為であるからです。使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の命令と教えに従ってシャイターンを追放しなければなりません。アッラーと使徒が禁止されたことを守らなければなりません。

投石後巡礼者はハドゥユ（犠牲）を屠畜してから、頭を剃ります。女性の場合は髪の毛を少し切るだけで充分です。男性の場合も髪の毛を少し切るだけでもよいですが、すべて剃ったほうが3倍よいとされています。そのあと普段の衣服に着替えてイフラームの状態をすべて解除します。但し、性交だけはまだ禁じられています。マッカへ行ってタワーフ・ル・イファーダとサイーを行います（76頁脚注（1）参照）。これをもって妻との性交を含めてすべてのイフラームの状態から解除されます。ミナーへ戻ってイードの残りとその後2日間はそこで過ごさなければなりません。ズル・ヒッジヤ月の11日と12日の両日の昼過ぎ3つのジャムラ（1）で投石しなければなりません。ミナーの隣にある一番小さいジャムラから始めて順次、次に中規模のジャムラに投石をして最後に、イード・ル・アドゥハー（犠牲祭）の日に行ったアカバのジャムラで投石をおこないます。それぞれのジャムラでは7つの小石を投石します。投石のたびタクビールを唱えます（2）。

12日に投石を終えたならば、ミナーから去っても構いません。13日まで延ばしたければ延ばしても構いません。この方が好ましいのです。昼過ぎ投石を行ってから、出発したければ、マッカのカーバ神殿でタワーフ・ル・ワダー（別離のタワーフ）をしてから直接帰路につきます。月経状態や分娩状態である場合すでにタワーフ・ル・イファーダやサイーが済んでいれば、タワーフ・ル・ワダーはしなくても構いません。

巡礼者が犠牲を11日あるいは12日あるいは13日に延ばしたとしてもそれは構いません。タワーフ・ル・イファーダやサイーをミナーから出るまで遅らせることもできます。しかし、好ましいのは既に述べたようにハッジの儀礼を行うことです(3)。このことについてはアッラーが一番よくご存知であります。アッラーよ、わが預言者ムハンマドとその一族に祝福と平安あれ(サッラッラーフ・アラー・ナビーイナー・ムハンマディン・ワ・アーリヒ・ワ・サッラム)。

#### 4. イーマーン (信仰)

**信仰の柱 (1)** アッラーフ・タアーラーはムスリムにアッラーとその使徒とイスラームの基盤の信仰に加えて、諸天使(2)(マラーイカ)と各使徒達に啓示されアル・クルアーンに網羅された諸啓典(3)(クトゥブ)を信仰するよう命じられています。アル・クルアーンはこれら諸啓典の最後のもので、これらの諸啓典はアル・クルアーンの啓示によって再啓示され封印されました。また、最初の使徒から最後の使徒ムハンマドにいたるすべての使徒(サッラッラーフ・アライヒム・ワ・サッラム)を信仰することです。なぜならかれらの啓示は1つであるからです。かれらの教えは1つで、それはイスラーム(1)です。啓示の主体は全宇宙のラッブ(主)である唯一無二のアッラーのほか存在しません。ムスリムはアル・クルアーンの中でアッラーが述べられているルスル(諸使徒)は過去の諸ウンマに遣わされたアッラーの使徒達であることを信仰しなければなりませんし、ムハンマドはかれらの封印であり全人類へ遣わされたアッラーの使徒であるということを信仰しなければなりません。かれの勅命後、人々はユダヤ教徒やキリスト教徒及びそれ以外のすべての宗教に属する人々に至るまで、すべてかれのウンマに属するということを信仰しなければなりません。地上に存在するすべてはムハンマドのウンマでアッラーの許しをもってかれの追従者に従わなければならないからです。

ムーサーやイーサーをはじめまた他の使徒達は、ムハンマドに従わずイスラームに入らない人々とは無縁であります。ムスリムはすべての使徒達を信仰し、かれら使徒達に従わなければならないからです。ムハンマドを信仰せずに従わずイスラームに入らない者はすべての使徒を認めない不信仰な人達(カーフィル)で、かれらは使徒達を嘔吐き呼ばわりしている者達です。たとえかれらたちが使徒のひとりでも従っていると主張したとしても、彼らは不信仰な人達です。この点についてのアッラーフ・タアーラーのみ言葉による証明は既に第2章で述べておきましたのでそれを参照して下さい。使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)は下記のハディースでこのことを指摘されています。次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( و الذي نفسي بيده لا يسمع بي أحد من هذه الأمة يهودي أو نصراني ثم يموت و لم يؤمن بالذي أرسلت به إلا كان من أصحاب النار ))

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃいました。『わが身のみ手に委ねられたお方に誓って、このウンマのひとりとしてユダヤ教徒であろうとキリスト教徒であろうと私のことを聞く者は誰もいないであろう。そして、ナール（業火）の徒となること以外には、私に遣わされた [啓示] を信じることなく死ぬであろう。』（ムスリム）

ムスリムは死後のバース（復活）とヒサーブ（清算）とジャザー（報い）とジャンナ（楽園）とナール（業火）を信じなければなりません。また、アッラーフ・タアーラーからのカダル（定命）をも信じなければなりません。

**カダル（定命）の信仰の意味** ムスリムはアッラーフ・タアーラーが既にありとあらゆることを知り尽くされ、天地が創造される前に僕達の行動を知り尽くされていらっしやったことを信じています。このことについてはアッラーのみ許にある天板（アッラウフ・ル・マフフーズ）に記録されています。ムスリムはアッラーが望まれることをアッラーはなされ、望まれないことはなされないということを知っています。アッラーフ・タアーラーはアッラーに服従するために僕を創造なされ、このことをはっきりと明らかにされ、アッラーへの服従を命じられるとともに、アッラーへの反抗心を禁じられたことについてもムスリムは知っています。そして、アッラーへの服従について僕達に明らかにされ、アッラーの諸命令を実行出来る力と意志を僕達に与えられ、反抗的な行動に対しては懲罰が与えられることもムスリムは知っています。

人間の意志はアッラーフ・タアーラーの意志に従属しています。しかしながら、人間の意志や選択に起因しない貧困や病気や不幸等のようなカダル（定命）に関して言えば、アッラーはこれを責めたり、これに対して人間を罰したりはせず、不幸や貧困や病気などに対して、もしアッラーのカダルに忍耐し満足したならば、アッラーは絶大なる報酬をもって報いるのです。上述したこれらのことすべてをムスリムは信仰しなければなりません。

アッラーの信仰において最も偉大で、アッラーに最も近く、ジャンナで最も高い地位を占めるのは善行を行う者達で、かれらはアッラーを崇拜し、崇め、アッラーを見ているかのように恐れ、また見られまいと見られようとアッラーに対し反抗的にならない者達です。また、こういう人達は自分たちがどこにしようと、アッラーに見られていることを信じ、かれらの言行について何ひとつ隠しだてなどせず、アッラーの命令に従い反抗心を断ち切り、もし過ち（すなわちアッラーの命令に逆らうこと）を犯したならばアッラーにすぐに心からタウバ（改悛）して自らの過ちを後悔し、アッラーに赦しを求め二度と過ちを犯さない者達なのです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((إِنَّ الْمَلَائِكَةَ لَتَأْتِيَنَّكُمْ أَمْثَلِيْنَ فَاسْتَضِيْعُوا لَهَا لَعْنَةُ اللَّهِ عَلَيْهَا لَمَّا حَضَرَهُنَّ فَأَذَّنَ اللَّهُ عَلَيْهِنَّ لَأُلْقِينَ فِيَّ الْجَهَنَّمَ بَدَائِعَهُنَّ وَأَنَّهُنَّ كَوَّابِقُ حُفْرٍ))

本当にアッラーはタクワー（畏怖の念）のある者と善行をする者と共にいらっしゃいます。  
(Q 16/128)

イスラームの教えの完璧さ アッラーフ・タアーラーはアル・クルアーンの中で次のよう  
におっしゃっています。

((وَأَوْفَىٰ بِمَا وَعَدْتُمْ أَن تَمَّتْ بِكُمْ دِينَكُمْ تَمَّتْ دِينَكُمْ تَمَّتْ دِينَكُمْ تَمَّتْ دِينَكُمْ))

本日われはあなたがたにあなたがたのディーン（教え）を完成させた。われのニウマ（恩  
寵）をあなたがたの上に完了し、あなたがたのためにイスラームをディーンとして撰んだ。  
(Q 5/3)

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((إِنَّ هَذَا الْقُرْآنَ يَهْدِي لِلَّتِي هِيَ أَقْبَلُ لِلْمُؤْمِنِينَ الَّذِينَ يَدْعُونَ بِصَلَاتِ الْحَمَاتِ أَنَّهُمْ أَجْرًا  
كَبِيرًا))

本当にこのアル・クルアーンは最適な方法で [人々を] 導き、立派な行いをする信徒達に  
は [アッラーからの] 多大なアジュール（報奨）が授けられるというブシュラー（吉報）を  
伝えている。(Q 17/9)

アッラーフ・タアーラーはアル・クルアーンについて次のようにおっしゃっています。

((يَوْمَ زُورَتْ فِي كُلِّ أُمَّةٍ شَيْءٌ عَلَيْهِمْ نَفَلْنَاهُمْ وَنَجَّيْنَا بِكَ هِنْدًا عَلَاحَ سَوْلَانِ نَا عَلَاحَ  
لِكِتَابِيَّةٍ أَنَا لِكِتَابِيَّةٍ عِدِّي هُوَ رَحْمَةٌ وَبُشْرَى لِلْمُسْلِمِينَ))

すべての事象を解明するために、またムスリムにとってフダー（導き）とラフマ（慈悲）  
とブシュラー（吉報）として、われらはこのキターブ（啓典）をあなたに啓示した。(Q  
16/89)

また、次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( تركتكم على البيضاء ليلها كنهارها لا يزيغ عنها إلا هلك ))

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃいました。『わたしは、昼間のような夜、破滅に至る者以外は迷わない真っ白な道にあなたがたを残しておく。』（サヒーフ）

次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( تركت فيكم ما إن تمسكتم به لن تضلوا أبدا كتاب الله و سنتي ))

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃいました。『わたしはアッラーからのキターブ（啓典）とわたしのスンナ（1）をあなたがたの [心の] 中に銘じておいた。もしこれ [アル・クルアーンとスンナ] にしっかりつかんでいたら、決して踏み迷うことはない。』

**アーヤの意味** 最初のアーヤでは、アッラーフ・タアーラーはムスリムのディーーン（教え）であるイスラームを完結され、ひとつの欠落もなく、補充をも必要としないことを伝えていらっしやいます。あらゆる時代場所を問わず有効である教えであることも伝えていらっしやいます。また、アッラーは完成された偉大で寛容な教えをもってムスリムに対してアッラーの恩寵を完結させたことも伝えていらっしやいます。また、使徒達の封印であられる使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の啓示とムスリムに敵対する者に対して、イスラームの普及とイスラームを信仰する者を援助することについても伝えられています。アッラーは人々にイスラームをディーヌ・ル・ハック（真理の教え）として選び、イスラーム以外の教えを誰からも受け入れることは決して出来ないということも伝えられています。

2つ目のアーヤの中で、偉大なるアル・クルアーンは人生における完成された指針で、アーヒラ（来世）とドゥンヤー（現世）の諸問題を治癒するディーヌ・ル・ハック（真理の教え）が解きあかされていることが伝えられています。アル・クルアーンに示されたもの以外には善はなく、また警告したもの以外には悪は存在していないことです。過去と現在と未来のすべての疑問や問題に関して公平で正しい解決方法はアル・クルアーン以外にはありません。これらの解決がアル・クルアーンに反しているものであればそれは無知であり不義なのです。

イルム（1）、アキーダ（信条）、政治、政体、司法、心理学、社会学、経済、刑法など人類が必要とするこれらすべての学問はアル・クルアーンとムハンマド、使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）を通じて、ハディースの中ですべて解明されています。アッラーフ・タアーラーが上述のアーヤの中で《ティブヤーナン・リ

クッリ・シャイン（すべての事象を解明するために）》と伝えられているように。次章ではイスラームの教えの完璧さとこの教えの方法論について、それぞれ項目をもうけて簡潔に記したいと思います。

## 第4章

### イスラームにおける生き方

#### 1. イルムについて

アッラーが人間に命じられた最初の義務は知ることです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

فَاعْرِضْ لِمِ اللَّهِ الْإِسْلَامَ وَاسْتَغْفِرْ لَكَ وَالْمُؤْمِنِينَ أُوْمِنُوا تَوَعَّلَلُمُ مُتَقَدِّبِكُمْ ثَوَاكُمْ))

アッラー以外にイラー（崇拝の対象）が存在しないことを知れ。あなたのザンブ（罪）と男女の信徒達のために赦しを乞いなさい。アッラーこそあなたがたの [昼間の] 雑務や [夜間の] 就寝についても (1) 知っていらっしゃる。(Q 47/19)

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((وَالْيَهُودِيْنَ آمَنُوا إِقْبِلَ لَمْ تَفْسَحِي وَاللَّهُ جَالِسٍ فَافْسَحُوا فَمَسَحَ إِلَيْكُمْ إِفْقِيلَ انشُرُوا  
فَنَشَأُ رُبُّو فَعِ اللَّهُ يَلِّقَ آمَنُوا مِنْكُمْ وَالْمَلِيْنَ أَلْتَعْلِمُ دَرَجَاتٍ وَمَا تَعْمَلُونَ خَيْرِيْنَ))

アッラーはあなたがたの中で信仰した者達とイルムを授けられた者達を [応分に] 位階 (2) を高められる。(Q 58/11)

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

(وَقُلْ رَبِّي زِدْنِي عِلْمًا)

ワ クッラッビ ズイドウニー イルマー

そして言え。「わがラッブ（主）よ、さらなるイルム（知力）をわたしに授けたまえ。」  
(Q 20/114)

アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((فَالسُّؤْلُ الَّذِي أَكْهَرَ إِنْ كُنْتُمْ لَا تَعْلَمُونَ))

もしあなたがたが分からないでいたならば、アハルッヅィクル（1）（訓戒の民）に尋ねなさい。(Q 21/7)

また、次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( طلب العلم فريضة على كل مسلم ))

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃいました。『タラブ・ル・イルミ ファリーダトゥン アラー・クッリムスリム（学問を希求することはすべてのムスリムの義務である）。』

また、次のようなハディースも伝えられています。

قال رسول الله : (( فضل العالم على الجاهل كفضل القمر ليلة البدر على سائر الكواكب ))

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃいました。『無知なる者よりも学問のある者の方が勝っているということは、ちょうど、すべての星〔を合わせた〕よりも満月の夜の月の〔明るさの〕方が勝っている例えのようなものである。』

イスラームにおけるイルム（学問）は次のように分類されています。

(i) 男女にかかわらず、すべての人間にとって必要不可欠な義務としてのイルムでこの義務をファルド・ラーズィムと呼びます。従って、この段階としてのイルムは誰一人無知であっていいことが許されないのです。アッラーフ・タアーラーに関する知識と使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に関する知識それにイスラームについてもっとも基本的な知識のことをいいます。

(ii) 誰か一人が行えば他の人がしなくても罪にならず、これで充分であるということをつアルド・キファーヤと呼びます。この範囲に属するイルムは義務ではなく好ましいとい

う範囲で、イスラーム法学その他ムスリムが日常生活に不可欠な実務や職業にとって必要な知識のことです。もしそのような人材が見つからなかったとしたら、日常生活に不可欠であることから、ムスリムの指導者（ワリーユ・ル・アムル）は全ムスリムにとって充足し得るだけの学者を見つける努力をしなければなりません。

## 2. アキーダ（信条）について

アッラーフ・スブハーナはその使徒ムハンマド（アライヒッサラート・ワッサラーム）に、人間は唯一無二のアッラーの僕であることを全人類に宣言するよう命じられました。そして、アッラーのみを崇拝することを義務づけました。既に述べたように、アッラーへの崇拝すなわち『ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラー以外にイラーは存在しない）』の意味においていかなる仲介も必要とせず、直接アッラーとの関係を結びつけるよう人類に命じられたのでした。唯一無二のアッラーにのみ委ね、畏れ、望みをかけることを人類に命じられました。結果はアッラーにのみ属しているからです。また、既に述べたようにアッラーご自身とその使徒が語られた超絶されたスィファート（属性）をもってのみアッラーを語らなければならないことも人類に命じられました。

## 3. 人々との諸関係について

アッラーは不信仰な暗闇の世界からイスラームの光明な世界へと全人類を救出するためにムスリムが敬虔でまじめな人間であるようムスリムに命じられました。このために筆者はこの著書を執筆しました。また、ある義務を果たすためにこの書物を出版しました。

アッラーはムスリムとそれ以外の人々との絆（きずな）はアッラーへの信仰と結びついた絆でなければならないことを命じられました。即ち、たとえ最も遠い関係にある人達であっても、アッラーはアッラーとその使徒に服従する敬虔なアッラーの僕を愛されます。また、たとえ最も近い関係にある人達であっても、アッラーを信仰せずアッラーとその使徒に対する反抗心のある者を嫌います。これこそ異なるところに散在している者同士が一緒になることのできる絆であり、ややもすればひびが入りやすい家や国あるいは物質的利害の絆の違いなどを超えて、異なるもの同士を結びつける絆でもあります。

このことについてアッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((لَا تَجِدُ قَوْمًا يُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ لِيَوْمٍ أَلْتَمَسُوا مَنَ حَالَةَ وَرَسُؤَلٍ لَوْ تَوَكَّلَا بِآبَاءِهِمْ أَوْ بَنَاتِهِمْ  
أَوْ خَوَلَاهُمْ مَوْجِرَ تَهُمَ لَأَعْيَبَ قَلْبُهُمْ بِإِيمَانٍ وَأَلْيَهُمُ وِجْهُ مِثْلَهُمْ جَنَاتٍ تَجْرِي  
مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ لِيَخْلِبُنَّ فِيهَا وَجْهَ اللَّهِ عَنْهُمْ وَرِضْوَانَهُ لِيُؤْتِكَ جَزَاءًا أَلِيًّا جَزَاءَ اللَّهِ هُمْ  
لِلْفَالِحِينَ))

あなたは、たとえ自分たちの父親であろうと子供達であろうと兄弟達であろうと近親者であろうと、アッラーとアル・ヤウム・ル・アーヒル（最後の日）を信仰している者がアッラーとその使徒に反抗している者と [マハッバ（友情）とヌスラ（援助）をもって（1）] 信頼関係を保つことはないであろう。（Q 58 / 22）

アッラーフ・タアーラーはまた次のようにおっしゃっています。

((وَالْيُطْلَأُ السُّؤَالُ بِإِخْلَاقِنَاكُمْ مِّنْ كَثْرِ أُنْثَىٰ مَوْلَانَاكُمْ شِعْرًا وَقَلْبًا تَعْلَمَانِ فَوَاقِرٌ مَّكْرُمٌ عِنْدَ اللَّهِ  
تَتَّقَاكُمْ إِنَّا اللَّهُمُّ خَبِيرٌ))

あなたがたのなかでアッラーのみ許で最も貴い扱いを受ける者はあなたがたの中で最も [アッラーを] 畏れている者だ。（Q 49 / 13）

**アーヤの意味** 最初のアーヤでは、アッラーフ・タアーラーはムスリムのディーーン（教え）であるイスラームを完結され、ひとつの欠落もなく、補充をも必要としないことを伝えていらっしやいます。あらゆる時代場所を問わず有効である教えであることも伝えていらっしやいます。また、アッラーは完成された偉大で寛容な教えをもってムスリムに対してアッラーの恩寵を完結させたことも伝えていらっしやいます。また、使徒達の封印であられる使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の啓示とムスリムに敵対する者に対して、イスラームの普及とイスラームを信仰する者を援助することについても伝えられています。アッラーは人々にイスラームをディーヌ・ル・ハック（真理の教え）として選び、イスラーム以外の教えを誰からも受け入れることは決して出来ないということも伝えられています。

アッラーフ・タアーラーは敵味方であっても公正であるようムスリムに命じられました。アッラーはムスリムに不正を禁じられました。それをアッラーの僕の間でハラーム（非合法）としました。ムスリムは正直で誠実でなければならないことを命じられました。裏切り行為を禁止行為としました。両親に対し親切（ビッル）であり、親類関係を維持し、貧者にたいして善行を施し、慈善事業に参加することを命じられました。他の動物に至るまですべてに渡って善行を施すことを命じられました。アッラーは動物を虐待することを禁止され愛護するよう命じられました。狂犬病にかかった犬をはじめとするへビやサソリやネズミなどは被害を及ぼさないよう虐待せずに即座に殺害しなければなりません。

## 4. 信仰あるものにとって

アル・クルアーンのいくつかのアーヤには人がどこにしようと人々をアッラーが見ていらっしや、そのすべての言行とその意図を知り尽くされ明らかにされていることが伝えられています。天使が人につきそっていて秘密にしていようとなかろうと人間から出るすべての言行を監視し記録していることをもアーヤの中で明らかにされています。また、アッラーは人間のすべての言行に対しヒサーブ（清算）しドゥンヤー（現世）でアッラーに対し反抗的でアッラーの命令に反すれば、痛ましいアッラーの罰が降りかかってくることを警告していることもいくつかのアーヤの中で明らかにしています。これらはアッラーを信仰しているものにとってアッラーに対する反抗心の起こることを禁じ、アッラーフ・タアーラーを恐れ犯罪や違法行為を絶つ最高の抑制となっています。

アッラーを恐れず反抗的行為を犯す者には、アッラーはドゥンヤー（現世）において守るべき法を定められました。それはムスリム達にも善行を命じ悪を禁じるよう命じられたのでした。ムスリムが他人の行動を見て、もし手で禁じられなかったならば、言葉で過ちを禁ずるまで、すべてのムスリムはアッラーに対してすべての過ちに責任を感じなければなりません。アッラーはムスリムの首長に対して違反者に法的規定を設けることを命じられました。犯罪の度合いに応じた刑を科すことです。これはアッラーフ・タアーラーによってアル・クルアーンの中で明らかにされています。また、使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）もそのハディースの中で、罪人にたいしてそれを実行するように命じられ、これによって正義や治安や繁栄が人々の間に広まる結果につながることを明らかにされました。

## 5. 社会生活における相互責任と相互扶助

ザカーやサダカのところで既に述べたように、アッラーはムスリムに互いに物質的精神的に協力することを命じられています。アッラーフ・タアーラーはムスリムに対しいかなる種類の危害も人々に与えることを禁止されました。たとえ自分以外の者が捨てたものでもそれを取り除くことをムスリムに命じられました。アッラーはこのような行為に対してアジュル（報酬）を与えることをムスリムに約束いたしました。また危害を与える者には罰を与えることを警告しています。

アッラーは信徒に自分を愛すると同様に他の兄弟である信徒を愛し、また自分自身に対して憎むことを他の兄弟である信徒に対しても憎むよう義務づけました。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((وَعَاوَنُوا عَلَيَّ لِلْبِرِّ الْتَقْوَى لَا تَعَاوَنُوا عَلَيَّ إِلَّا فِي الْعَدْوِ وَإِنِّي عَلَى الْوَدْعِ الْقَدِيمِ))

ビル (善行) とタクワー (畏怖の念) をもって互いに助け合いイスマ (過ち) とウドゥワーン (敵意) をもって助け合ってはならない。 (Q 5 / 2)

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

((الْمُؤْمِنُونَ إِخْوَةٌ صَادِقُونَ أَخَوُكُمْ أَتَقُولُوا الْعَدْلُكُمْ تَحْمَهُونَ))

信徒達は兄弟なのである。あなたがた兄弟の間柄を改善しなさい。 (Q 49 / 10)

アッラーフ・タアーラーは次のようにもおっしゃっています。

خَلِيلٌ فِي كَثِيرٍ مِّنْ حَوَاهِيمٍ مِّنْ أَبْصَادٍ قَدِيمَةٍ وَرُؤْفٍ أَوْ إِصْلَاحٍ بِالنَّاسِ وَمَنْ يَفْعَلْ ذَلِكَ  
بِتَغْلَاءِ مَرْضَاتٍ فَلَسَوْفَ نَثِيهَ أَجْرًا عَظِيمًا))

かれらのナジュワー (内緒話) の多くには善はひとつもない。但し、サダカ (喜捨) あるいはマールーフ (善行) あるいは人々の間柄を改善することを命じたり、アッラーのご満悦をただひたすら求めてそれを行う者は別である。そこで、われらは偉大な報酬をそういう人には [必ず] もたらずであろう。 (Q 4 / 114)

次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( لا يؤمن أحدكم حتى يحب لأخيه ما يحب لنفسه))

使徒 (ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) はおっしゃいました。『誰でも自分自身のために愛せることを他の兄弟のためにも愛せるようになってはじめて信徒なのだ。』 (ムスリム)

人生最後となった別離の巡礼で説いたかの偉大な説教で使徒 (ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) は既に命じられてきたことの再確認として、次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( يا أيها الناس إن ربكم واحد و أباكم واحد ألا لا فضل لعربي على عجمي و لا لعجمي على عربي و لا لأسود على أحمري و لا لأحمري على أسود إلا بالتقوى أبلغت ؟ )) قالوا : أبلغ

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃいました。『人々よ、あなたがたのラッブ（主）はひとつで、あなたがたの父はひとつである。アラブが非アラブに優れているとか、非アラブがアラブに優れているとか、赤が黒に優れているとか、黒が赤に優れているとかということは全くない。あるとすれば、タクワー（畏怖の念）を除いて他にない。わたしの言ったことがあなたがた全員に伝わったか。』そして、一同は申し上げた。「アッラーの使徒はお伝えになりました。」（1）

また、次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( إن دماءكم و أموالكم و أعراضكم عليكم حرام كحرمة يومكم هذا في شهركم هذا و في بلدكم هذا، هل بلغت ؟ )) قالوا : نعم ، فرفع إصبعه إلى السماء و قال : (( اللهم اشهد ))

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃいました。『今月のこの日及びこの土地マッカがフルマ（神聖）であるように、あなたがたの生命、財産そして名誉 [を犯すこと] はあなたがたには禁止された。わたしの言ったことがあなたがた全員に伝わったか。』一同が「はい」と言うや、指を空に向けてあげられた。『アッラーよ、証言して下さい』とおっしゃいました。

## 6. 内政

アッラーはムスリム自らイマーム（指導者）を任命し信任することを命じられました。また、分裂することなく団結してひとつのウンマとなるよう命じられました。また、ムスリムは指導者がアッラーの命令に背いた場合を除いて、信任したイマームまたはアミール（首長）に服従するよう命じられました。

アッラーはムスリムにイスラームの教えと活動を広めることができない地域にいた場合、イスラーム法をもって支配され、ムスリムの指導者がアッラーの啓示をもって治めるイスラームの地域に移住することを命じられました。

イスラームは国境や国籍や人種差別を認めず、ムスリムにとってイスラームの粹こそが国籍なのです。すべての住民はアッラーの僕で、すべての土地はアッラーの所有するところなのです。もしシャリーア（イスラーム法）が施行されていれば、ムスリムは何の妨げもなしにこの土地を移動することが出来るのです。もしこれにひとつでも違反したならばアッラー

の裁きに委ねられるのです。シャリーアの施行やハッド刑（1）の存在は治安の維持や人びとの生活に支障をきたさずすみ、市民の生命や名誉や財産その他人間が犯されてはならないものすべてを守ります。これを変更することは大変罪深いことなのです。

アッラーフ・タアーラーは酒類や麻薬類また惑わすものを禁じ人間の理性を守って下さっています。理性を維持し人びとを悪から守るために、麻薬の使用や飲酒のたびにハッド刑が科せられ40から80のむち打ち刑が科せられます。

キサース（2）をもってムスリムの生命を守ることです。それは不当に殺害した者には殺害者は死刑とすることです。傷害にもキサース刑が認められています。また、ムスリムには自己の生命や名誉や財産を守る自己防衛の権利が与えられています。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

﴿لَكُمْ فِي الْقِيَامَةِ حَيَاةٌ أَوْ لِي الْإِنْعَادِ كُمْ تَتَّقُونَ﴾

あなたがたにとってキサースには生命 [の救済] がある。思慮ある者達よ、おそらくあなたがたが [アッラーを] 畏れるであろうと。 (Q 2/179)

次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( من قتل دون نفسه فهو شهيد ، و من قتل دون أهله فهو شهيد ، و من قتل دون ماله فهو شهيد )) (1)

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃいました。『自分の生命、名誉、財産を守ろうとして殺されたものはシャヒード（殉教者）である。』

・アッラーはムスリムの名誉を守って下さっています。真実をもって以外は人のいやがる中傷について話したり、姦通や同性愛のような倫理的犯罪に関して、法的根拠をもって断定もせずムスリムを中傷したりすることをハッド刑をもって禁じています。

・アッラーフ・タアーラーは酒類や麻薬類また惑わすものを禁じ人間の理性を守って下さっています。理性を維持し人びとを悪から守るために、麻薬の使用や飲酒のたびにハッド刑が科せられ40から80のむち打ち刑が科せられます。

・アッラーは財産を守って下さってもいます。窃盗、ごまかし、かけ、賄賂などから得た非合法的な所得を禁じています。窃盗犯や追い剥ぎなどには厳しい刑罰が科せられていま

す。もし証拠が揃えば手首が切断されます。

これらのハッド刑を制定されたのは全知で英知を備えられたアッラーであります。そして、アッラーは更生すべき人間の状況について十分に知り尽くされています。そして人間には大変慈悲深きお方なのです。アッラーはハッド刑をムスリムの中で犯罪を犯した者の贖罪（カフアーラ）としました。また、ハッド刑はムスリムあるいはムスリム以外が犯した犯罪から社会を守る予防としました。殺人者を死刑にしたり、窃盗犯の手を切断したりすることをあなどる者はイスラームの敵やペてん師といわれる者達なのです。こういう人達は病にかかった体の部位を切断することをあなどることになります。もし手を切断しなかつたならば社会に腐敗がすぐに蔓延してしまうでしょう（1）。同時にこのような人達は自分たちの不正な目的達成のために無実な人を殺害することを合法化してしまっています。

## 7. 外交政策

アッラーはムスリムやその為政者がムスリム以外の人達に、ドゥンヤ（現世）の物質生活に浸っていることの哀れさを説き、ムスリムが実感している精神的幸福の吉報を知らせ、不信仰の闇からアッラーへの信仰の光（ヌール）へ導くためにイスラームの教えを呼び掛けるよう命じられました。アッラーがムスリムにこのことを命じられたのはムスリムが全人類にとって役立ちかつ全人類を救済するために立ち上がる立派な人間になることにあるからです。これは立派な市民となることだけを人間に求めている人間的な方法とはまったく異なります。後者は腐敗とマイナス面を示す証であるのに、前者はイスラームのよさや完璧さを示す証となっています。

アッラーはムスリムにアッラーの敵に対してイスラームとムスリムを守るために、また、アッラーやムスリムの敵に警告を与えるために出来る限りの力を備えることを命じられました。もし必要であれば、アッラーはイスラーム法に照らしムスリムに非ムスリムと条約を結ぶことを許されました。アッラーはムスリムに敵と結んだ条約を破ることを禁止されました。但し、敵がこれに誠意を見せなかつたりあるいは守るべきことを遵守しなかつた場合は別です。

非ムスリムとの戦闘にさいし、アッラーは最初に敵にイスラームに入るよう呼び掛けることをムスリムに命じられました。もし拒否したならば、ジズヤ（2）の供出とアッラーの統治に服することを敵に求めます。もし敵が拒否したならば、かれらがアッラーの教えのすべてに服し騒動が収束するまで戦闘が行われます。

戦闘がなされている間、なんらかの形で戦闘に直接あるいは間接参加した者を除いては、婦女子をはじめとする高齢者や宗教に携わっている者など非戦闘員を殺害することをムスリムに禁じました。捕虜に対しては出来るだけ厚遇することを命じられました。これから

でも分かるように、イスラームにおける戦いは単に制圧したり搾取したりすることではなく、ハック（真理）や被造物に対する慈悲を広め、かつ被造物の崇拜から創造主であられるアッラーへの崇拜を広めることにあるのです。

## 8. 自由

**信仰の自由** アッラーフ・タアーラーはイスラームの教えにおいて、イスラームについて十分な説明を受けた後、ムスリム以外にイスラームの支配下に入った者には信仰の自由を与えられました。もしイスラームを選択したならば幸福と救済に預かることとなります。もし今まで通り自分たちの宗教に留まることであれば、自ら不信仰と不幸とナール（業火）での罰を選択したことを自ら弁明したことになります。アッラーフ・タアーラーの前では言い訳はできません。この場合、かれらはジズヤと呼ばれる税を支払います。アッラーフ・タアーラーに対するシルク（多神崇拜）がまずあげられます。かつイスラームの支配に服し、ムスリムの前で自らの宗教儀礼を吹聴しないという条件でもって、ムスリムはかれらの宗教を信仰することを認めることになっています。

イスラームに入信後はもとの宗教に戻ることは出来ません。もしも元の宗教に戻るようなことがあれば、その報いは死刑なのです。それはハック（真理）を悟った後元の宗教に戻った場合、アッラーフ・タアーラーに赦しを求めてタウバ（改悛）してイスラームに戻る以外には生存の道はありません。イスラームから離反（リッダ）することはイスラームの教えではアッラーへの冒流行為のひとつで、この場合、この冒流行為を根から絶ち、アッラーフ・タアーラーに赦しを乞い改悛しなければなりません。

### <<アッラーへの冒流行為のいろいろ>>

(i) アッラーフ・タアーラーに対するシルク（多神崇拜）がまずあげられます。これはアッラーに対する最大の冒流で、これはシャフアーア（執成し）を求めて敬虔な人物を形作った偶像を崇拜していたジャーヒリーヤ時代の多神教徒のように、僕がアッラーにドーア（祈願）をあげたり、また少しでもアッラーに近づこうとしたりするさい、僕とアッラーとの間に仲介を定めて、アッラーをさしおいて他のイラー（崇拜の対象）を崇拜することです。そしてイラーとしてアッラーの唯一性を認めながらも、シルクとは「偶像の前で膝まずつくことだ」とかあるいはアッラー以外のものに「これがわたしのイラーだと唱えることだ」と言っている、実際はアッラーの唯一性を真剣になって説いている人達からの教えは受け入れようとしなない人達がいることです。自らムスリムと称し多神崇拜をどんなに否定していても、このような行為をすること自体がシルク以外のなにものでもないのです。こういう人は酒以外の名前と呼んで酒を飲んでいるような人達です。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

﴿ذَلَّلْنَا إِلَى سَكِّتِ الْبَلْحَقِّ فَأَعْلَبَدَ مَا لِحَصَالِهِ الدِّينَ لِمَا لِلَّهِ مِنَ الْخَلْقِ وَالنَّبِيِّاتِ خَدُّوا  
 مِنْهُ وَذُرِّوْا لِيَاءَ فَطَبَّحْتُمْ هَذَا لِيَقْرَبُونَا لِلَّهِ زَلَّيْنَا لِلَّهِ يَحْبُكُنْتَهُمْ فَهِيَ مَقْلِيهِ يَخْتَلِفُونَ إِنْ  
 لَمَّا لَا يَهَيِّ مِنْهُ هُوَ كَلْبٌ كَفَّارٌ﴾

ディーン（[真の] 教え）としてアッラーを誠実に崇拝しなさい。\*アッディーン・ル・  
 ハーリス（純正な教え）はアッラーにのみ帰属するのではないか。そして、かれ [アッ  
 ラー] を差し置いて [偶像を] アウリヤー（守護者）として定める者は「われらがかれら  
 [アウリヤー] を崇拝するのはかれら [アウリヤー] がわれらをアッラーのズルファー  
 （そば）に近づかせてくれるためである」と [言う（1）]。本当にアッラーはかれらの  
 間で食い違っているところを裁決される。本当に、アッラーは嘔吐きで不信仰な者を導か  
 れないのだ。（Q 3 9/2-3）

﴿لَوْ أَنَّ اللَّيْلَ فَالْيَوْمَ وَالنَّهَارَ الْقَلِيلَ وَسَخَّرَ اللَّهُ سُلَيْمَةَ وَمَلَائِكَةَ كُلِّ يَجْرِيًا جَلِ هَسَى ذَلِكَ كُمْ  
 لَهُ الْإِبْرَاطُ لِمَا لَمْ يَكُنْ لَمْ يَدْعُونَ مِنْ دُونِهِ مَلِكًا مِنْ قَطْمِيرٍ 13 إِنْ تَعْتَهُمْ لَا يَسْمَعُوا  
 دُعَاءَكُمْ وَلَوْ سَمِعُوا مَا لَمْ يَجَابُوا لَكُمْ وَيَوْمَ يَأْتِيكُمْ يَفْكَرُونَ وَتَلْمِزْتُمْ شُرَكَاءَ بَعْضُكُمْ﴾

そのような [創造をされた] お方こそあなたがたのラッブ（主）アッラーであられる。か  
 れ [アッラー] にこそムルク（主権）は属する。あなたがたがかれ [アッラー] を差し置  
 いてあなたがたが祈るものには [ナツメヤシの種子を包む薄い皮（2）] キトウミールほ  
 ども [ムルク（主権）] は持ち合わせていない。\*もしあなたがたがかれら [アスナム  
 （3）（偶像）] に祈っても、かれらはあなたがたの祈りには耳を傾けない。たとえ耳を  
 傾けたとしてもあなたがたには応えられない。ヤウム・ル・キヤマ（復活の日）、かれ  
 らはあなたがたの [行ってきた] シルク（多神崇拜）とは無縁なのである。あなたに [ドゥ  
 ンヤー（現世）とアーヒラ（来世）について] 知らせることの出来るようなハビール（通  
 曉されたお方）は [アッラーの他に誰も] いないのだ。（Q 3 5/13-14）

(ii) 多神教徒及びそれ以外のユダヤ教徒やキリスト教徒や無神論者や拝火教徒や邪教徒  
 などのような不信仰者の贖罪はないということです。こういう人達はアッラーの啓示によ  
 らずに政務を司ったりしてアッラーの下した法に満足しない者達なのです。

(iii) 魔法は多神崇拜の中でも大罪のひとつで大シルクと呼ばれているものです。魔法を  
 行った者は不信仰者であるということを知りながら魔法を行ったり、これに満足したりし  
 た者は不信仰者なのです。

(iv) イスラーム法以外の法の方がイスラーム法よりも勝っているとか、預言者（アンナ  
 ビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）が規範として樹立されたウンマ（イ  
 スラーム共同体）の理念以外の方が勝っているとか、アッラーの法によらなくてもかまわ  
 ないと信じること。

(v) 使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）を憎み、そうすることがシャリーアの一部であるということを教えること。

(vi) イスラームのいかなる教えであろうと、これを少しでも嘲笑すること。

(vii) イスラームの勝利を嫌ったりイスラームの高揚の低下を喜んだりすること。

(viii) 不信仰者を友としたり援助者としてしたりして政権につくこと。

(ix) どんなことであろうとイスラーム法から離脱することは正しくないと知っていながら、イスラーム法から離脱しても構わないと信じていること。

(x) アッラーの教えに逆らうこと。信仰後何も学ばず実践もせずにイスラームに逆らう者は不信仰者なのです。

(xi) イスラーム法のいかなる規定をも拒むこと。

これらはすべてアッラーへの冒瀆でこのことについてはアル・クルアーンやハディースに多く見受けられます。

**言論の自由** イスラームの教えに反しないという条件でイスラームでは言論の自由（1）が与えられました。アッラーは誰の前でも誰からも非難されることなく、真実を言うことをムスリムに命じられました。これをもって最も徳のあるジハード（2）とされました。そして、ムスリムの諸事を司る者達に忠言をし、違反行為に対しては厳しく取り締まりかれらを監視するようアッラーはムスリムに命じられました。不正を行う者には毅然たる態度で立ち向かうことも命じられました。これこそ他の人の意見を尊重する最高の制度なのです。イスラーム法に反する意見はその主が公の場所に現れることを許しません。なぜならばハック（真理）に対する破壊であり、腐敗であり、戦いであるからです。

**人格権の自由** イスラームではイスラーム法の範囲内で個人の人格権が与えられました。男性であろうと女性であろうと一個人は商売、贈与、寄進、赦免等のような行為において、個人と第三者との間に自由に振る舞うことが出来るよう権限を与えられました。男女それぞれに配偶者の選択の自由を与えられました。これは両者の一方が満足しない者に嫌悪を抱かせないことにあります。しかし、女性が男性を選択するさい、ディーヌ・ル・ハック（真理の教え）において男性は女性とは同等ではないのです。女性のイーマーン（信仰）や榮譽を守るために、女性自ら婚約者を勝手に選択することは許されないことなのです。それは彼女と彼女の家族のために禁じられているからです。

女性の後見人（代理人のことで、血縁関係で女性に最も近い男性になる）が結婚の契約（3）に臨むのです。女性は不貞と間違われぬように自分勝手に結婚してはならないからです。ふたりの証人の出席のもと、後見人は夫となる男性に「誰々をあなたに結婚させた」と言うと男性は後見人に「この結婚をお受けいたしました」と答えて結婚の契約が成立するのです。

イスラームはアッラーが定めた限界を超えることを許されません。個人及び個人がもっているすべてはアッラーの所有にあるからです。ムスリムの行動はアッラーの僕に対する慈悲のために定められたシャリーアの範囲内においてなされなければなりません。シャリーアを遵守するものはアッラーに導かれ幸福な人達なのです。それに反すれば不幸であり自滅しかありえないのです。故に、アッラーは姦通や姦淫（かんいん）や同性愛その他あらゆる淫らな行為を厳しく禁じていらっしゃいます。また、自殺やアッラーが創造なされた被造物の変形を非合法とされています。口髭（くちひげ）を剃ったり爪を切ったり、また陰毛や脇の下の毛を剃ったり割礼を施したりすることなどこれらすべてはアッラーが命じられたことなのです。

ムスリムはアッラーの敵の特徴をもった様々なことがらを真似することを禁止されました。かれらの外形を真似たりかれらに情愛をもつことはかれらの真似につながったりかれらに対し心に情愛をもつことになるからです。アッラーはムスリムに、人間の思想や考えの押し売りとなるのではなく、ムスリム自身が正しいイスラーム思想の源泉となるよう望んでいらっしゃるのです。アッラーはムスリムに人まねではなくイスラームの立派な規範となることを求めていらっしゃるのです。

良心的な産業や技術に関して言えば、たとえ非ムスリムが既に成し遂げたものであってもイスラームはそれらを奨励し採用することを命じています。アッラーこそ人類の教師だからです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

عَلَّمَهُ الْإِنْسَانَ مَا لَمْ يَعْلَمُ

【アッラーは】人間が【なにも】知らなかったことを人間に教えた。（Q 96/5）

これこそ、自分自身の悪や他人の悪から人間の自由と尊厳を維持し遵守して下さることから得られる、人間に対する忠言と更生の最高の位階なのです。

**居住権の自由** アッラーフ・タアーラーはムスリムに安心して生活できるよう居住権の自由を与えられました。許可なく何人も他人の家に入室することはできません。また許可なく室内をのぞくことも堅く禁じられています。

**就労の自由** アッラーフ・タアーラーはムスリムにアッラーが定められた範囲で就労とそこから生活費を出費する自由を与えられました。また、自分自身と家族のためにまた慈善をするに足り得るだけの就労と収入を得ることを命じられました。また同時にアッラーは下記に記されたような非合法的な収入を禁じられました。たとえば、利子、賭、賄賂、窃盗によったり、あるいは占い、魔法、姦通や同性愛などによって得られた収入を禁じられました。また、動物が描かれた絵や酒や豚肉の売買やアッラーから見て非合法的な遊び道具などの売買の禁止、また歌手や踊り子が受け取る賃金などです。これらすべてが非合法的な収入にあたり、これらから得られた収入はすべて禁止されているだけではなく、これらの収入からの出費も禁止されています。ムスリムは合法的な手段によってのみ得られた収入の中からしか出費することはできません。これこそまさに、合法的な収入で幸福な生活を豊かに暮らすための収入と出費において考察する、人間にとって忠言と更生の最高の位階なのです。

## 9. 家族

アッラーフ・タアーラーは幸福が得られるようにイスラーム法において家族を最も完璧な形で制度化されました。まず、両親に対して善行をするよう定められています。悪口などを言ったりしないこと、遠方に住んでいようと訪問を欠かさないこと、そして手助けや生活費などを見ること、またふたりがあるいは1人でも貧しければ住居費などを立て替えてやること、アッラーは両親の面倒をおこたるようなことでもあれば厳しい罰が襲ってくることを威嚇されています。そして両親を大切にする者は幸福を約束されていらっしゃる。こういう観点に立って、イスラームでは結婚が使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）を通して啓典アル・クルアーンにシャリーアとしてきめ細かくアッラーのヒクマ（英知）として定められています。

(i) 結婚は節操を守り姦通を回避し、非合法的なものを凝視しないようにとの最も大きな理由が含まれています。

(ii) アッラーは夫婦間に友情や慈悲を与えられたので、結婚は夫婦間に安心感を植え付けさせます。

(iii) 結婚によって法的に認知された子供が得られ、ムスリムの数が増え健全な子供が育成できます。

(iv) アッラーフ・スブハーナが既に定められたように、各自自分に適切と思われる職務を遂行するさい、結婚は夫婦間の協力を実らせませす。

夫は家の外へ出て妻や子供達のために働き収入を得るのです。妻は家の中で家事などをして働くのです。妊娠出産し育児に専念するだけでなく、夫の食事の世話をし、その他の家の中の仕事をするのです。もし夫が疲れはてて帰宅したならば疲れや心配は吹っ飛び妻や子供達に慰められるのです。家族全員が安堵と喜びの中で生活がおくられるのです。もし夫婦が満足すれば夫の仕事のかたわら妻自身の収入のためにあるいは夫を援助する目的で仕事をするのは構わないです。それには一定の条件が必要です。男性たちに触れない遠く離れた環境で働くことです。自分の家の中とかあるいは妻自身のあるいは夫のあるいは家族の畑だとかで働くような場合です。工場とか会社だとか店等のように男性たちと触れるようなところで働くことはできません。女性はこのような場所で働くことは出来ないのです。たとえ妻自身が満足したとしても、夫や子供や親類の者達は決して許してはなりません。妻自身あるいは社会自身が腐敗に直面するからです。女性は男性と混ざることなく、汚い手や罪深い者の目の届かない安全な家の中で守られなければなりません。もし一人で外出してしまうようなことにでもなれば狼の中の一匹の子羊のようになってしまい、本来持っていた荣誉と尊厳性が失われてしまうのです。

夫がもし一人の妻に満足しなければ、住居、生活費、居住などにおいて出来る限り公平に扱うという条件付きで、アッラーは夫に4人までの限定つきで複数の妻をめとることが許されています。愛については人間のもつ権限外なので、公平でなければならぬという条件はないのです。アッラーフ・タアラーはそのことについて次のようにおっしゃっています。

لَرَوَّسْتُمْ طَيْعُوا أَنْ نَعْتَدَ لِبُنِّ النَّسَاءِ لَوْ صَحَّتُمْ فَلَا تَكْمُلُ الْوَالِدُ الْمَيْلَ فَيَتَذَرُوهَا كَالْمَعْتَةِ وَإِنْ تَصَلَحُوا وَاتَّقَى الْوَالِدُ اللَّهَ كَانَ غَوْرًا رَحِيمًا

そして、あなたがたは決して妻たちを公平に扱うことはできない。たとえ心がけたとしても。(Q 4/129)

妻たちの間で実現させなければならぬ愛情や情愛というものは公平でなければなりません。これは男性の能力を超えるものであります。だが、男性が妻たちを公平に出来ないからといって、アッラーフ・スブハーナは多妻制を禁止されたわけではないのです。従って、アッラーフ・スブハーナは多妻制というものに法的根拠を与えられ、使徒達をはじめ妻たちを公平に扱うことのできる者に多妻制をシャリーアの中で実現させたのです。アッラーフ・スブハーナは男性女性にとってより好ましい方法を御存じであります。それは健全な男性というものは性に関して4人の女性を娶るだけの性的要求をみだす用意が出来ているものです。キリスト教徒(1)等の中で現在そうであるようにひとりの妻に限ったとしたら、どうなるでしょうか。下記にこの点について述べておきましょう。

(i) もしアッラーに服従しアッラーを恐れる信徒であれば何か禁欲を感じさせる生活をおくっているのではないかと思うからです。合法的なものが精神的必要性を抑制したこと

になります。ひとりの妻の場合、もし妻が不妊であったりあるいは月経や出産あるいは病気だとかで、夫が性生活に支障が出来、あたかも妻がいないかのような残りの人生をおくる結果になるのです。妻は夫が気に入って、夫が妻を愛し妻も夫を愛しているということであればとのことです。もし妻が夫を愛していないということであれば、それ以上に弊害があります。

(ii) 夫がアッラーに対して反抗的で裏切り者であったならば夫は姦通という売春行為を犯し、妻から去って行くでしょう。多妻制度を認めない多くの人達は姦通や無制限な多妻において裏切り行為という犯罪を犯すでしょう。これ以上に恐るべきことは、イスラームで定められた多妻制度が合法的であるという事が分かっているにもかかわらず、イスラーム法で定められたこの多妻制度を攻撃すれば不信仰者という烙印が押されるでしょう。

(iii) もし多妻制が禁止されたならば女性の多くは結婚や子供に恵まれないことにもなるでしょう。彼女たちの中で敬虔で謙虚なものは哀れで子供に恵まれない未亡人として生涯をおくることになるでしょう。また別な者は放蕩で不義を働き犯罪人のつけ込む余地となるでしょう。

戦争や危険な仕事でより男性のほうが死に直面するという事で女性は男性よりも人口数で数が多いということが知られています。また、女性は適齢期に達すれば肉体的に結婚できる準備ができているということも知られています。一方男性は必ずしもそういうわけではありません。マハル（1）の支払いが出来なかったり生活費を捻出できなかったりして結婚ができない男性が多いのです。このようにイスラームは女性に対して公平で慈悲深いのです。シャリーアで定められた多妻制度を攻撃する者は女性の敵であり、美德の敵であり、預言者達の敵であります。多妻制は過去の預言者達（アライヒムッサラート・ワッサラーム）のスナ（慣習）でもあり、かれらはかつて複数の女性達と結婚し、アッラーが定められたシャリーアの中で女性達を娶っていたのでした。

ふたり目の女性を娶ったとき妻を感じる嫉妬心に関してはそれは単なる感情的な問題であり、法的には感情というものは一切入り込む余地はないのです。女性は結婚をする前に自ら男性にふたり目の妻を娶らないようにという条件をつけることができます。もし男性がそれを承諾すればこの条件を遵守しなければなりません。もし男性がふたり目の妻を娶るということであれば、女性はそのまま結婚生活を続けるか、結婚を破棄するか、いずれかを選択することができるのです。

離婚（2）はイスラーム法で定められています。夫婦間で性格の不一致や不和があったり、夫婦間の一方に愛情が欠如したりした場合のために離婚制度があります。このような状態で生活をおくらないためにも、両人が離婚後ムスリムのままで亡くなったならば、ドゥンヤー（現世）とアーヒラ（3）（来世）において幸福な生活がおくれる配偶者を得るためにも離婚制度があります。

## 10. 健康

イスラーム法はすべての医学上の源泉を網羅しています。偉大なるアル・クルアーンや使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のハディースには心身に関する病気及びその治療の多くが明らかにされています。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

نُزِّلُ مِنَ الْقُرْآنِ فَلَاحُورَ حَمِيمَةٍ لِّلْمُؤْمِنِينَ لَّا يَنْزِلُ الظَّالِمِينَ إِلَّا خَسَارًا

われらは〔段階的に〕シファー（治癒）とラフマ（慈悲）となるアル・クルアーンを信徒達に啓示する。（Q 17/82）

次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( ما أنزل الله من داء إلا أنزل له شفاء علمه من علم و جهله من جهل )) ( 2 )

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃっています。『アッラーは病を授けられたのではなく。ただこれに対して治癒を授けられただけなのだ。知識のある者はこのことが分かる。知識のない者はこのことが分からない。』  
(Q 17/82)

次のようなハディースが伝えられています。

قال رسول الله : (( تداووا عباد الله و لا تداووا بحرام ))

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃっています。『アッラーの僕をいやしなさい。〔但し〕ハラーム（非合法）をもっていやしてはならない (1) 。』

これらのことについて詳しくはイブヌ・ル・カイイムの著作を参照されたい。

## 1 1. 商業・経済・産業・農業

人々が必要とする飲食をはじめ、公共施設、人々が安心して暮らせる市町村の制度、衛生、交通整備、違法行為に対する対策などこれらすべてはイスラームによって詳細にしかも完璧な形で伝えられています。

## 1 2. 目に見えない敵

アッラーフ・スブハーナはアル・クルアーンの中でムスリムである僕に次のように明らかにしています。人間にはドゥンヤー（現世）及びアーヒラ（来世）において滅亡へ引き入れる敵がいるということです。それに引き入れられて追従するようなことにでもなればことは重大です。アッラーは人間にそのことについて警告し、それからいかにして逃れるかについて明らかにしています。これらの敵について下記に述べておきます。

**呪われるべきシャイターン（悪魔）** シャイターンはジャンナ（樂園）から追放されたわれわれ人間の先祖である我が父祖アダムとその妻である我が母ハウワー（イブ）の敵です。シャイターンは人間をその他の敵と敵対させる目に見えない被造物です。アダムの子孫の敵でこの世の終わりまでそれは続きます。シャイターンは人間を背信に陥れることに専念し、背信の徒となった人間と一緒にナール（業火）に永遠に生きながらえるのです。背信の徒に陥れられなかった者達でもアッラーの怒りと罰に触れる反抗的な状態に陥れようとする陰謀が働いていますから、この点わたしども人間は十分に気を付けなくてはなりません。

シャイターンは人間の血管の中を通り胸の内ですさやき、悪で人間を着飾らせる霊（ルーフ）です。もし人間が追従すれば陥れられるのです。シャイターンから逃れる方法はアッラーフ・スブハーナが既に明らかにされているように、もしムスリムが怒りあるいは反抗的になりそうだったならば、「アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターニッラジーム（アッラーよ、呪われたシャイターンからお守り下さい）」と必ず唱えることです。怒らなくなるようになり、反抗的にもならずにすみます。人間を滅亡に陥れるために心の中で感じる悪の要因はシャイターンの仕業であることとそれから逃れることを知るべきです。

**﴿إِنَّ الظَّالِمَانَ لَكُمْ فَاتَّوَجَّهُدُوهُ عَدُوًّا وَإِنِّي لَأَبْدَأُ عُوْدَ جِبْرَائِيلَ لِيَكُوْنُوْنَ أَصْحَابِ السَّعِيرِ﴾**

シャイターンはあなたがたの敵なのだ。然るに、それ [シャイターン] を敵とせよ。 [シャイターン] はサイール（地獄）の仲間入りをするために、かれのやからを誘うだけのこと

だ。(Q 3 5/6)

**ハワー (欲心)** 人間の第2の敵にハワー (欲心) があります。それはおそらく人間が感じとれるハック (真理) を拒もうとするあるいは人間を超絶した存在主がハック (真理) をもたらしてきても、その支配を拒み退けようとする傾向のことです。それは実際に望んでいることとは逆に、ハワーにはハック (真理) や正義にたいして感情を優先させる性質があるからです。この敵から逃れる方法にはアッラーの僕はアッラーフ・タアーラーにハワーから守っていただくようご加護 (1) をこうことがなによりも重要なことです。

またハワーの動機にゆえたり、ハワーに追従したりしないことです。それよりさらに一步踏み込んでハック (真理) を唱え、たとえ、それが苦くてもハック (真理) を受け入れてアッラーにシャイターンからのご加護をこうことです。

**悪を命ずる魂** これは姦通 (ズィナー) や飲酒、また断食月のラマダーン期間中にイスラーム法で定められていること以外で断食を破ることなどおよそ人間が心で感じとれるしてはならない私慾 (シャフワ) の行為を犯そうとする主体のことです。この敵から逃れる方法にはアッラーの僕はアッラーフ・タアーラーに自分自身の悪とシャイターンから守っていただくようご加護をこうこととアッラーフ・タアーラーのご満悦をひたすら求めて、してはならない私慾の行為には忍耐し避けることです。断食中少しでも飲食をとれば精神的苦痛を伴うことから、喉の乾きや空腹から自ら忍耐することです。そして飲食をとった瞬間この私慾は消滅し、そのあと虚無感や後悔だけがずっと長く残ることだけが後々まで思い起こされることを知るべきです。

**人間** 第4の敵それは人間というシャイターンです。実は、シャイターンが人間をそそのかし、そこに居合わせた人達にしてはならないことをし、シャイターンになりすましている人間の反抗者達のことです。この敵から逃れる方法にはまず警戒し遠ざかりその場に居合わせないことです。

### 1 3. 高尚な目的と幸福な生活

アッラーフ・スブハーナがその僕であるムスリムに向けられている高尚な目的とはドゥンヤー (現世) の生活やつかの間の誘惑 (ムグリヤート) ではなく、死後のアーヒラ (来世) すなわち永遠なる真の未来に対して準備を怠らないことです。誠実なムスリムはドゥンヤーをアーヒラへの手段あるいは耕地としてドゥンヤーで働くのです。

(وَلَا يَهْدِيَنِ آمَنُوا لِقَوْلِ اللَّهِ وَلِنَظُرْ فَنُفْسٌ لِمَقَلَمَتِ غُلْدٍ وَاتَّقُوا اللَّهَ إِنَّ اللَّهَ شَدِيدُ الْعِقَابِ 18

وَلَا تَكُونُوا كَالَّذِينَ نَسُوا آلَاءَهُمْ فَأَنسَاهُمْ أَنسَاهُمْ فَهُمْ لَهَا نِسْوَةٌ أَوْ كَالَّذِينَ نَسُوا آلَاءَهُمْ فَهُمْ لَهَا نِسْوَةٌ  
وَأَصْحَابُ الْجَنَّةِ أَصْحَابُ الْجَنَّةِ هُمْ لَهَا نِسْوَةٌ))

信仰に入った者達よ、アッラーを畏れよ。明日のために既に行ったことについて各自考えよ。アッラーを畏れよ。本当にアッラーはあなたがたのしていることに通曉されていらっしやる。\*アッラーを忘れた者達のようにはなるな。[アッラーは]あなたがた自身を忘却させたのである。こういう人達こそファースィクーン（不服従な者達）である。\*アスハーブンナール（業火の仲間）とアスハーブ・ル・ジャンナ（樂園の仲間）は同じではない。アスハーブ・ル・ジャンナこそ凱旋者である。（Q 59/18-20）

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

فَمَنْ يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ خَيْرًا يَرَهُ وَمَنْ يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ شَرًّا يَرَهُ))

どんなに微量であってもハイル（善行）をしてきた者は誰でもそれを見る。どんなに微量であってもシャッル（悪行）を働いた者は誰でもそれを見る。（Q 99/7-8）

誠実なムスリムであれば誰しものがアッラーフ・タアーラーのみ言葉であるこれらのまた他の素晴らしいアーヤを思い起こすでしょう。僕達を創造した目的と彼らを待っている避けることの出来ない未来のために僕達に向けられたアッラーのみ言葉です。唯一無二のアッラーへの誠実な崇拝とアッラーが満足される行為をもって永遠なる本当の未来に備えることです。それはドゥンヤー（現世）ではアッラーへの服従をもって報われ、死後においてはジャンナ（樂園）に入れてもらえるということにはほかなりません。アッラーはよい生活環境の中で僕達を蘇生させ僕達を常に優しく扱っていらっしやいます。それはアッラーの保護と庇護によって暮らし、アッラーの光を見て、アッラーの命じられたイバーダート（行）を果たすことなのです。そしてアッラーフ・タアーラーへの語りかけ（ムナージャー）を求め心と舌でアッラーを念じることによって心が安らぐのです。

言行をもって人々に善行を行うと、その善行に嫉妬する人もいますが、たとえ忘恩を見てもこういう人に対しても善行を惜しまないことです。それはアッラーのみ顔と報酬（サワブ）を望むだけだからです。ディーヌ・ル・ハック（真理の教え）であるイスラームとその追従者達であるムスリム達を嫌う悪漢どもから受けた使徒達の受難について話を聞くと、イスラームに対する愛着をより強く感じ、こういった受難こそアッラーの道のためであることを知り、イスラームの教えがしっかりと身に付くようになるはずです。ムスリムはイスラーム及びムスリムが益するように生産に励み、アッラーと会える日を期待してアッラーからのアジュル（報酬）が得られるようにと誠実に働くことです。また、自らと家族を支えるだけの合法的な収入を得るためにしっかりしたニーヤ（意志）をもってオフィスや畑や店や工場などの職場で自ら汗を流して働くことです。得た収入の一部をサダカ（喜捨）し、アッラーからの報酬を望んで心豊かにしかも榮譽と満足感をもってその日その日を大切に暮らすことです。アッラーは信仰心の強い信徒を愛されるからです。アッラーへの服従心を強めるために適度に飲食を取り、休むことです。アッラーが禁止されたことに

対し妻や自らの赦しをこい、アッラーを崇拜し、立派な仕事が続きますようにとまた生前中ではもとより死後もドーア（祈願）する子供達を生むために妻と結婚生活をおくることです。ムスリムの数は増えアッラーからのアジュルも得られ、アッラーへの服従の助けをこうのです。そして、それがアッラーからのみであることを知ることによって得られたニウマ（恩寵）に対しアッラーフ・タアーラに感謝しなければなりません。飢餓や恐怖や病気など時折降り懸かってくる災難はアッラーからの試練であることを知らなければなりません。これは降り懸かってくるアッラーのカダル（定命）に忍耐しまた満足しその限界をアッラーに知ってもらうためにあるからです。とにかく、忍耐した者に用意され与えられるアッラーからの報酬に期待し満足しアッラーを讃えることです。病気の回復を願っていやな薬を病人が受け入れるように、災難はそれほどでもなく受け入れられるはずです。

ムスリムはドゥンヤー（現世）で遭遇する混乱に見舞われることもなければ死によってさげられることもない永遠なる幸福を得るために、本当の永遠なる未来に向かって働き、アッラーが命じられたようにこの高潔な精神をもってドゥンヤー（現世）を送ることができたならば、それは確かにドゥンヤーと死後のアーヒラ（来世）における至福であります。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

تِلْكَ الدَّارُ الْآخِرَةُ نَجْهًا لِلَّذِينَ لَا يُرِيدُونَ مَلْهُوًّا فَلْيَرْضَ وَالْفَاسِقِينَ إِنَّهُمْ لَمُنْتَقِينَ))

われらはかのアーヒラ（来世）の住みか [であるジャンナ〈楽園〉] をこの地上で傲慢や腐敗を望まない者達に授けるのだ。アーキバ〈善き終焉〉はムッタクーン（[アッラーを] 畏れる者達）のもの。（Q 28/83）

さらに、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

(( هُنَّ عِلَالٌ حِصَامٌ ذَكَرَ أَبُو نُعَيْبٍ وَهُنَّ مَنُوقَاتٌ فَلَمْ يَجِئْهُنَّ بِجَهَنَّمَ فَجَزَيْتَهُنَّ أَجْرَهُنَّ جَنَّةً مَا كَانُوا وَعَمَلُونَ))

男女に関わらず信仰をもって立派な行いをした者には [ドゥンヤー（現世）では] われらは善き生活を授け、[アーヒラ（来世）では] かれらが行っていた最高の善行を [評価して] 報いよう。（Q 16/97）

上述のアーヤでアッラーフ・タアーラーは、アッラーフ・タアーラーに服従し、かつひたすらアッラーのご満悦のみを求めて働く敬虔な者には男女に関わらずそれ相当の報酬を授けることを伝えていらっしゃいます。それはドゥンヤー（現世）で幸福な素晴らしい生活を送られるという早急に実現されるジャザー（報い）の他に、死後アーヒラ（来世）でも永遠のジャンナ〈楽園〉をもって報われるジャザーがあることです。次のようなハディースが伝えられています。

((قال رسول الله : (( عجا للمؤمن إن أمره كله له خير إن أصابته سراء شكر فكان خيرا له ، و إن أصابته ضراء صبر فكان خيرا له ))

使徒 (ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) はおっしゃっています。『信徒にとってこんな素晴らしい話がある。信徒に関することすべては信徒にとってよいことである。もしなにかよいことがあったならば感謝し、それは信徒にとってよいこととなろう。なにか悪いことが身に降り懸かってきたならば、忍耐し、それは信徒にとってよいこととなろう。』

これからも明らかなように、イスラームだけが健全な考えと善悪に対し唯一正しい尺度を持ち完璧で公正な指標をもっていることがお分かりになったことでしょうか。心理学、社会学、教育学、政治学、経済学などにおけるあらゆる思想や理論及び人類の制度とその指標はイスラームに照らして修正され、イスラームから採用されなければならないということです。イスラームに反する成功は不可能で、ドゥンヤー(現世)とアーヒラ(来世)において、採用した者にとっては不幸の源泉以外の何ものでもないということです。

## 第5章

### イスラームに対する誤解

#### 1. イスラームを悪く言う人達

イスラームについて悪く言う人達の多くは次の2つに分類されます。

**第1のグループ** 下記に掲げるグループに属し、自分たちはムスリムであると言いながら、言行においてイスラームの信条に反し、誤った行動をしている人達のことです。イスラームにはまったく罪はないのです。従って、かれらはイスラームの教えを代弁しておらず、かれらの言行をイスラームに帰属させることは間違っています。

(i) 死者に御利益を祈願したり禍福を信じたりして、墓の回りを回っている者達のように、イスラームの信仰から離脱している者達のことです。

(ii) 倫理的にもイスラームから外れている者達で、こういう人達はアッラーが課した義務を怠り、姦通や飲酒のような犯してはならないことを犯す人達です。また、このような人達はアッラーの敵を好み、その容姿や行動を真似する人達でもあります。

(iii) イスラームをよく思わない人達の中にはムスリムもいます。こういう人達はアッラーへの信仰が弱くイスラームの教えの実践に乏しい人達です。こういう人達はある義務に関していい加減で、大シルクとまではいかななくても、背信行為とされる非合法的なことをして罪を犯している人達のことです。こういう人達は禁止された悪習に慣れているのです。イスラームはこのようなこととはまったく無関係なのです。虚偽やごまかし、約束を反故にし、嫉妬をいだくなどのような行為は大罪と見なせるでしょう。こういう人達はすべてがイスラームを悪くする人達です。ムスリム以外でイスラームに無知な者はイスラームはかれらがしていることだと思ふことでしょう。

**第2のグループ** イスラーム（アッラーへの服従）について悪評する人達の中にはイスラームに敵意を抱く人達があります。かれらたちこそイスラームを嫌悪している者達なのです。こういう人達に東洋学者とキリスト教やユダヤ教の宣教師達が挙げられます。そして、これらの人達にイスラームに嫌悪を抱く人達すべてが続きます。かれらを怒らせたのはイスラームの完璧さと寛大さ、それに急速な広がりでした。それは提示しただけで受け入れられたフィトラ(1)（生得）の教えであったからです。ムスリム以外のすべての人間は失望

と自分たちの宗教あるいは宗派に満足できない状態の中であえいでいます。これらの宗教や宗派はアッラーが礎としたフィトラに反しているからです。イスラームは人類がその教えに満足し幸福に暮らせるためのただ唯一の教えであるだけでなくアッラーが定められたディーヌ・ル・ハック（真理の教え）でもあるからです。アッラーが定められた法は人間の創始のさいアッラーが礎とされたフィトラと合致しているからです。かくてすべてのキリスト教徒やユダヤ教徒及びイスラームから離脱している人達に次のように告げたいと思います。「あなたの子供達はイスラームのフィトラで生まれました。しかし、あなたや母親達がだめな教育で子供達を背信の状態にしてイスラームの教えから遠ざけたのです。これはイスラームに反した者達の行為なのです。」

東洋学者や宣教師達はイスラーム及び使徒達の最後の封印であられる使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）を偽ることにあえて専念しました。その理由は下記の通りです。

(i) 啓示を偽ったこと。

(ii) 欠点や負から無縁で完璧であられるにもかかわらず、使徒を中傷したりしたこと。

(iii) 全知で英明であられるアッラーが定められた公正なイスラーム法から人々を背けさせるためにイスラーム法を歪曲したこと。

しかし、かれらたちはハック（真理）に挑戦し挑んできていますが、ハックは高められても、低められることは決してありませんので、アッラーフ・スブハーナはかれらの計略を無効にされてきました。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃっています。

رَبِّدُّوْنَ لِيُطْفَؤُوْا نُوْرًا لَّمَّا بَقَاوْا هَلْمَهُ وَمَا لَكُمْ نُوْرًا لَّمَّا زَكَّرَهُ الْكٰفِرُوْنَ ۗ هٰذَا عَلَيَّ اَرْسَلْتُ رَسُوْلَهٗ  
لِيَهْدِيَ وَيُنِ الْحَقَّ لَهْرَهُ عَلَيْنِ الْكٰلِهٖ وَلَوْ كَرِهَتْ اُمَّمٌ مُّشْرِكُوْنَ

かれらたちは口先でヌールッラー（アッラーのみ光） [アル・クルアーンの啓示(1)] を消そうとする。アッラーはみ光を全うされるお方。たとえカーフィルーン（背信の徒）が忌み嫌おうとしても。\*かれこそ [他の] ディーン（教え）すべてに対し、それ [イスラーム] を勝利させるために [人類への] フダー（導き）とディーヌ・ル・ハック（真理の教え）を携えさせて一人の使徒を遣わされたお方。たとえムシュリクーン（多神教徒達）が忌み嫌おうとしても。（Q 6 1/8 – 9）

## 2. イスラームの源泉

頭脳明晰な読者がイスラームについてその真実を知ったならばアル・クルアーンやハディース書をぜひ読んで頂きたいと思います。サヒーフ・ル・ブハーリー、サヒーフ・ムスリム、アル・イマーム・マーリクのムアッタ、アル・イマーム・アフマド・ブン・ハンバルのムスナド、それにアブー・ダーウード、アンナサーイー、アッティルミズイー、イブン・マージャ、アッダーリーミーをはじめとするハディース学者の書物を読んで頂きたいと思います。イブン・ヒシャームのシーラ（預言者伝）も読んでみることをお勧めします。イブン・カシールアル・クルアーン注釈書やイブヌ・ル・カィイムの書物等を読むことをお勧めします。その他、シャイフ・ル・イスラーム（イスラームの長老）であるイブン・タイミーヤや革新的なアル・イマーム・ムハンマド・ブン・アブド・ル・ワッハーブをはじめとするイスラームの第一人者でしかもタウヒードの徒と称される人の書物もぜひ一読してほしいと思います。アッラーはヒジュラ歴 12 世紀から今日に至るまでの期間アラビア半島及びその周辺地域において多神崇拜が広まって以来、ムハンマド・ブン・アブド・ル・ワッハーブとタウヒードの長であるムハンマド・ブン・サウードのふたりをしてイスラームの教えとタウヒードの信条を高揚されたことは記憶に新しい。

東洋学者の著作やイスラームと称するさまざまな教団は既に指摘したように、イスラームが提唱していることと反しています。サハーバ（教友達）を始めアッラーの唯一性を説く者達を侮辱しののしり、イブン・タイミーヤやイブヌ・ル・カィイムやムハンマド・ブン・アブド・ル・ワッハーブなどアッラーの唯一性を説くイスラームの重鎮とすべき人達の主張が偽りであるだけでなくかれらの書いた書物は人を迷わせると言っただけでなくかれらの中傷し、読むこと自体警告しています。

## 3. マズハブ（1）

ムスリムはすべてアル・クルアーンと使徒のハディースを基盤とするイスラームというひとつのマズハブにのみ属しているということを明確にしておかなければなりません。ハンバリーとかマーリキー、シャーフイー、ハナフィー等、4 大マズハブと呼ばれるものはイスラーム法学の学派を意味し、これらのウラマー（イスラーム学者）がそれぞれの弟子達に教授し、アル・クルアーンや使徒のハディースから推論した規則や問題を弟子達がまとめ、これらの問題（マサーイル）が各法学者に由来することから学派（マドラサ）が形成された所以となったのです。その後、それぞれの法学者の名前が命名されたのです。これらの各学派はイスラームの源泉（ウスूल）に関してはすべて一致しているのです。そしてこの源泉はアル・クルアーンとハディースにあるのです。これら 4 学派において相違はなく、あったとしてもそれは枝葉的なものです。これらの法学者達はすべて弟子達にアル・クルアーンとハディースの引用をもってそれぞれの見解の根拠とすることを命じて

います。

ムスリムはこれら4学派のうちのひとつに所属している必要はなく、必要なことはムスリム自身がアル・クルアーンとハディースに回帰することなのです。実は、4大学派に帰属している者の多くは墓場のまわりをまわったり死者に願いごとを頼んだり、あるいはアッラーのスィファート（属性）を曲解して表面上の意味から反らそうとしているのです。こうした行為そのものが実は各マズハブのアキーダ（信条）から外れているのです。ここで注意しておかなければならないことは4大学派の先覚者であるイマーム達の信条は53頁の《救われる集団》のところで前述した敬虔なサラフ（先人）の信条となんら変わらないのです。

#### 4. イスラームとは無関係な団体

イスラーム世界にはイスラームとは無関係な団体が存在しています。イスラームという名前をかりムスリムの団体であると主張してはいますが、アッラーをはじめアル・クルアーンのみ言葉やハディースに対し背信的であるがため、実はムスリムの団体ではないのです。下記にこれに属する団体について述べたいと思います。

**バーティニーヤ教団** アル・クルアーンの解釈に際し使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）が既に明らかにされた解釈によってムスリムの間で既に一致している表面的な意味を否定し、これと対立する内面的な意味を主張するだけではなく、信条において化身（けしん）や輪廻を信じている教団のことをいいます。この内面的な意味の解釈は実はこの教団の性格から出たものです。

バーティニーヤの成立起源はユダヤ教徒、拝火教徒及び、ペルシャ各地にいた哲学者の無神論者の一派から生まれました。イスラームが広まったことによりかれらの権威が粉碎された際、アル・クルアーンの意味に関してムスリム間の混乱と分裂を意図する目的で形成されました。この目的がより底辺にまで及ぶように使徒の一族に帰属する教団であると主張し、何も知らぬ無知な大衆を狩り集め、真理の道からはずれさせ踏み迷わせたのです。

**カーディヤーニーヤ教団** バーティニーヤ教団のひとつにグラーム・アフマドという人物に由来するカーディヤーニーヤ教団があります。自ら預言者であることを主張したことで名をあげ、インド及びその周辺地域で有象無象（うぞうむぞう）を相手にその信仰を説いたのでした。インドのイギリス占領軍は植民地時代を通じて彼を利用し彼とその信奉者達を厚遇した結果、多くの無学の者達が追従したのでした。表向きイスラームを自称するカーディヤーニーヤ教団はイスラームを破壊しようとしその関係者達を追放しようとしてきました。

《アハマディーヤの予言性の証拠の証明》という書物を著し、この中でグラーム・アフマドの予言性を主張しアル・クルアーンの文言を改竄してイスラームにおけるジハードが無効になったことを主張したのでした。そしてすべてのムスリムはイギリスの占領軍に投降すべきだと主張しました。また《心の浄化》という書物も著しました。イスラームの大反逆者であったかれは多くの人々を真の道からはずさせた後1908年世を去りました。その後アル・ハキーム・ヌールッディーンがかれの後を継いで、この教団を統率しました。

**バハーイーヤ教団** イスラームの正道から外れたバーティニーヤ教団のひとつにバハーイーヤと呼ばれる教団があります。19世紀初頭イランでアリー・ムハンマドと称する人物によって設立された教団です。ムハンマド・アリー・アッシーラーズィーともいわれています。

かれは自ら待たれるマハディーと主張したことで名をあげ一派を形成して独立しました。その後かれはアッラーフ・タアラーがかれの中に宿り人々の神となったと主張したのでした。かれはバース（復活）、ヒサーブ（清算）、ジャンナ（楽園）、ナール（業火）を否定し、バラモン教や仏教の道になったのでした。ユダヤ教徒やキリスト教徒やムスリム達を一括しかれらの間には相違のないことを主張するとともに、ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の最後の使徒としての資格やシャリーア（イスラーム法）の多くを否定しました。かれの死後かれの右腕と称するバハーという名の人物が後を継いで多くの信奉者を得ました。この教団の名前はこの2代目のバハーに由来しています。

前述したこれらの背信的な教団こそ自称イスラームと称しながらイスラームを破壊しようとしている背信的な教団なのです。

頭脳明晰な読者よ、全世界にいるムスリムよ、イスラームの教えは単に主張するだけの教えではありません。そのディーヌ・ル・ハック（真理の教え）はアル・クルアーンと使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のハディースについて認識を深め実践することにあります。アル・クルアーンと使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のハディースを黙考していただくとお分かりになるとと思います。そこにはラッブ・ル・アーラミーン（万有の主）のみ許にあって麗しきジャンナ（楽園）に至る至福へ到達するヒダーヤ（導き）とヌール（光）それにアッスィラート・ル・ムスタキーム（正しい道）とが見つかるということを指摘しておきたいと思いません。

## 救いへの招請

イスラームにまだ入っていない頭脳明晰な読者であるあなたに下記のいくつかの点においてナジャー（救い）とサアーダ（幸福）への招請を發します。

- 死後墓場とジャハンナム（地獄）のナール（業火）におけるアッラーフ・タアーラーのアザーブ（懲罰）からあなた自身が救われます。
- アッラーをラッブ（主）とするアッラーへのイーマーン（信仰）とムハンマドを使徒とするムハンマドへのイーマーン（信仰）、それにイスラームをディーヌ・ル・ハック（真理の教え）とするイスラームへのイーマーンをもってあなたは救われます。誠実に「アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、ワ・アンナ・ムハンマダッラスールッラー」と唱えてごらんください。一日五回のサラ（礼拝）をし、ザカー（浄財の供出）をし、サウム（断食）等の義務を果たしてごらんください。もし可能であるならば聖地マッカへのハッジ（巡礼）の義務も果たしてごらんください。
- アッラーに服従すること（1）を表明しなさい。これ以外にあなたを救い幸福にするディーン（教え）はありません。
- わたしは読者であるあなたのために、崇拝の対象として唯一存在するアッラーに、イスラームこそアッラーがディーン（教え）として受け入れて下さる唯一のディーヌ・ル・ハック（真理の教え）であると誓います。また、わたしはアッラーとその天使とすべての被造物にたいしてアッラー以外に崇拝の対象は存在せず、ムハンマドはアッラーの使徒であること、そしてイスラームこそ真（まこと）であり、わたしはムスリムの一人であることを証言します。

わたしはアッラーフ・スブハーナに、その恩恵と寛大さをもって、わたしとわたしの子孫とすべてのムスリムが真のムスリムとして死を迎えられますよう希（こいねが）います。正直で忠実なわが預言者ムハンマドとそれにすべての預言者達と我が預言者の一族とサハーバ（教友達）とともに麗（うるわ）しきジャンナ（樂園）にわれらを一同に集めて下さいますよう希います。アッラーフ・タアーラーにこの本を読む者また聞く者すべてにこの本が有益で役に立ちますことを希います。わたしはこの本の著者として責任を果たせましたでしょうか。アッラーのご証言を承ります。

アッラーフ・タアーラーこそすべてに通暁されたお方。われらの預言者ムハンマドとその一族とサハーバ（教友達）にアッラーの祝福と平安あれ。万有の主アッラーを讃えん。